

平成16年度国土施策創発調査

# 地域資源活用に係る人材情報の調査 及びデ・タベ・ス化に関する調査報告書

本 編

平成17年3月

環境省自然環境局

## はじめに

我が国における経済社会は、高度成長期を経て成熟期を迎えた 21 世紀において、国や地方財政の悪化、産業の空洞化、個性の喪失、集落機能の喪失等の問題が顕在化する中で、国際競争社会、少子高齢社会、持続可能な開発等への対応が迫られている。このことから、省庁連携による社会システムの構造改革の推進をはじめ、地方分権、都市再生、自然再生、地域再生、観光立国、都市と地方の対流、持続可能な社会形成等を目指した様々な取り組みが展開されている。

一方、地域においては、開発から保全と利用への転換、参加と連携、NPO等市民活動の多様化等が活発化し、地域資源活用による活性化の取り組みとして、エコミュージアム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ワーキングホリデー、エコツーリズム等が各地で展開されている。こうした中で、エコツーリズムにおいては、地域の持続可能性と環境保全が期待され、地域の活性化、地域の環境保全、都市住民の余暇活動等に寄与する取り組みとして、都市と地方の両面から期待が寄せられている。

本業務の対象地域である下灘地域は、徳島県の南部に位置し、温暖な気候に恵まれた山と川と海を舞台に、豊かな自然と文化に育まれた暮らしが営まれている。しかし、その一方で、地場産業の衰退、人口の減少等が共通の問題となっている。このことから、当地域の海南町、海部町、穴喰町の 3 町が合併に向け、「海陽町」として自立を目指した取り組みが推進されており、今後、3 町が有する地域資源を最大限に活用し、都市との対流を目指した地域活性化が重要な問題の一つにあげられる。この解決策の一つとして、エコツーリズムの推進が起案されたが、的確なマーケティングや魅力あるツアー企画とその運営の体制づくりはもとより、その組織化と人材の確保が大きな課題となっている。

こうした中で、下灘地域におけるエコツーリズムは、地域資源の保全を図り、地域の個性として最大限に活用しつつ、地域住民参加型による新たな観光地づくりを目指すこととされている。そして、子供たちの環境教育・環境学習、高齢者のいきがいづくり、一次産業の活性化、雇用の拡大、地域の収益と還元、元気なまちづくり等への効果が求められ、その早期実現が望まれている。

これらの背景を踏まえ、本業務では、地域資源としての「人材」に焦点を絞り、地域に精通した住民が主体となってエコツーリズムを推進するための人材のデータベース化と、その管理システムのあり方を探り、現在設立に向けて調整している(仮)下灘エコツーリズム運営組織や、他の資源活用型の体験ツアーにも汎用可能なものとしてとりまとめを行ったものである。

平成 17 年 3 月

# 目 次

## はじめに

・ 本調査の背景及び調査の概要	1
1. 調査の背景	1
2. 本調査における調査対象地域と調査の概要	2
（1）調査対象地域と調査の目的	2
（2）調査の項目と方法	2
（3）調査の体制	3
・ 下灘地域における人材情報及びデータベース化	4
1. 対象地域内の課題と対応方針の整理	4
（1）現状と問題点	4
（2）課題と対応方針の整理	6
2. 先進事例の調査と整理	7
（1）類似の人材登録に関する現状	7
（2）登録と活用のあり方	23
3. 求められる人材	24
（1）人材の存在価値と必要性	24
（2）人材の特性と資質	26
（3）人材の役割と能力	28
4. 人材情報の管理	34
（1）人材情報管理	34
（2）人材情報の収集と発信	35
（3）人材情報管理システム	37
5. システムの検証	49
（1）下灘エコツーリズムにおける実施例	49
（2）グリーンツーリズムにおける実施例	56
6. 今後の取組みへの提言	61
（1）運営と展開例	61
（2）人材の発掘	68
（3）人材の育成	70
（4）方策の提言	73

## ・本調査の背景及び調査の概要

### 1. 調査の背景

環境省では、自然環境の保全、観光の振興を通じて地域の振興を目指す新しい考え方であるエコツーリズムの普及定着を図るため、平成16～18年度の3年間で、全国13地区において「国立公園等エコツーリズム推進モデル事業」を推進している。

また、「環境教育推進法」の施行に基づき、平成16年10月より「人材認定等事業の登録制度」の運用が始まることから、エコツーリズムに関する環境学習や自然体験活動等に関してガイドや指導のできる人材と、その力を十分に発揮できるようコーディネートする人材の情報及びそのあり方についての早急な整備が課題となっている。

一方、高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT基本法）等に鑑み、これらの情報は個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現のため、ネットワークを通じて広く有効に活用されるべきものであり、その制度やデータベース化において共通の基本的な基準・規格が必要となっている。

以上のことから、「地域資源活用に係る人材情報の調査及びデータベース化に関する調査」として、

エコツーリズムに関する分野（環境保全、観光振興、地域振興）の人材発掘から登録までの効率的な仕組み及びネットワークに対応する制度のあり方についての検討

エコツーリズムに関する分野の人材・技術等について、利用者に分かりやすいデータベースとするための基準・規格の検討

に取組むこととされ、この成果は、

17年度のエコツーリズム推進モデル事業における各地域の人材情報等に関する取組みの共通的な基本部分として活用

他省庁等が取組む各調査分野等のコーディネーター制度や人材情報等のデータベース化への幅広い反映

により、過疎地の遊休地域資源を地域の魅力に転換するための手法の一部として、迅速かつ機動的な地域づくりに関する施策の総合的かつ円滑な推進に資するとされている。

本調査は、これらを踏まえ、徳島県の南部に位置する「下灘地域」をケーススタディーとして、調査を実施したものである。

## 2. 本調査における調査対象地域と調査の概要

### (1) 調査対象地域と調査の目的

本調査は、徳島県の南部を舞台にしたエコツーリズムが推進される下灘地域を対象としたものである。

調査の目的は、エコツーリズム推進のための課題の一つである地域資源活用に係る「人材発掘から登録までの効率的な仕組み及びネットワークに対応する制度のあり方」と「人材・技術等について利用者に分かりやすいデータベースとするための基準・規格」について地域の実情に即した検討を行い、過疎地の遊休地域資源を地域の魅力に転換するための手法の一部として、迅速かつ機動的な地域づくりに関する施策の総合的かつ円滑な推進に資することとした。

### (2) 調査の項目と方法

調査にあたっては、平成16年12月に徳島県が策定した「下灘地域(海陽町)エコツーリズム推進基本計画」に設定されている7つのエリアに対応して、下灘地域内に在住する人材の調査を行うこととした。この調査結果に基づき、コーディネーターとツアーガイドとしての人材を整理し、その登録とネットワーク化及びデータベース化のための基準・規格を設定したものである。

調査の主な項目と方法は以下のとおりである。

#### ・対象地域内の課題と対応方針の整理

##### ( ) 現状と問題点

下灘地域に在住する人材を調査し、7つのエリア及びツアープログラムに対応して整理し、問題点を明らかにする。

##### ( ) 課題と対応方針の整理

明らかにした問題点から課題を整理し、解決のための対応方針を設定する。

#### ・先進事例の調査と整理

##### ( ) 類似の人材登録に関する現状

エコツーリズムやグリーンツーリズム及び環境教育等に関する人材のデータベース化の現状について、文献及びインターネット等によって調査し、その実態を整理する。

##### ( ) 登録と活用のあり方

人材データベース化の実態に基づき、問題点と課題を整理し、人材の登録と活用に関する制度のあり方を検討する。

#### ・求められる人材

##### ( ) 人材の存在価値と必要性

エコツーリズムにおける人材の存在価値と必要性について整理する。

- ( ) 人材の特性と資質  
下灘地域でのエコツーリズムにおける人材の特性や資質について整理する。
- ( ) 人材の役割と能力  
整理した人材の特性や資質に応じた役割と能力について整理する。

**・人材情報の管理**

- ( ) 人材情報管理  
下灘地域においてエコツーリズムを推進するための情報管理の概略について整理する。
- ( ) 人材情報の収集と発信  
人材の登録と活用のための情報収集や発信のあり方について検討する。
- ( ) 人材情報管理システム  
人材の登録と活用のための情報管理システムについて検討する。

**(3) 調査の体制**

調査の実施にあたっては、表 - 1 に示す「下灘地域（海陽町）エコツーリズム計画推進協議会」を構成する徳島県及び海南・海部・穴喰 3 町の関係機関を主体に実施したものである。

**表 - 1 下灘地域（海陽町）エコツーリズム計画推進協議会関係機関**

所 属	担当課	担当者
徳島県	県民環境部環境企画課自然共生室	川口 始
海南町	産業建設課	田中 豊彦
海部町	産業建設課	長岡 正樹
穴喰町	企画調整課	木戸口貢二

## ・下灘地域における人材情報及びデータベース化

### 1．対象地域内の課題と対応方針の整理

下灘地域における人材の情報管理及びデータベース化のために、対象地域における人材の現状について調査した。

調査結果から、人材特性の分析によって問題点を抽出し、課題と対応方針を整理した。

#### (1) 現状と問題点

対象地域内の人材把握にあたり、下灘地域の各自治体からの人材情報に加え、自然体験及び環境教育・学習等に関連する諸団体に登録されている人材からエコツアーリズムに関する分野の人材について調査し、対象地域内の人材の現状と問題点を整理した。

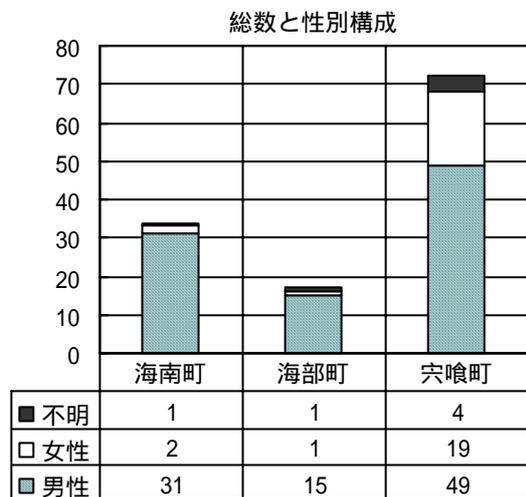
尚、各自治体からの人材情報のうち、一部の人材については、当人へのエコツアープログラム参加の意思は未確認となっているが、今後の人材発掘のための調査対象者として計上することとした。

#### ・人材の現状

収集できた人材情報から下灘地域内の人材の現状について、その特性を分析し、次のとおり整理した。

#### ( ) 総数と性別構成

- ・各町の人材総数は、海南町 34 人、海部町 17 人、宍喰町 72 人となっている。
- ・人口(20 歳以上)に対する人材の比率では、海南町が 0.7%、海部町が 0.9%、宍喰町が 2.5%となる。
- ・性別では、3 町ともほとんどが男性であり、海南町と海部町は約 9 割、宍喰町は約 7 割を占めている。



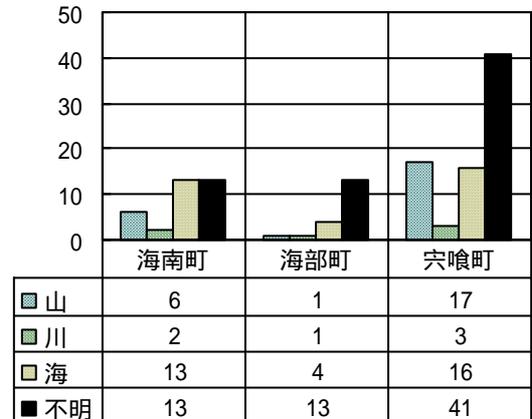
単位:人

各町の 20 歳以上の人口 H17.1.1 現在(海南町:4,863 人、海部町:1,978 人、宍喰町:2,899 人)

( ) 活動フィールド

- ・ 3町ともに川での活動が少ない。
- ・ 3町ともに活動フィールドの情報が不足している。
- ・ 海南町では、海が13人と最も多く、ついで山が6人となっている。
- ・ 海部町では、海が4人と最も多く、ついで山と川が各1人となっている。
- ・ 穴喰町では、山が17人と最も多く、ついで海が16人となっている。

活動フィールド

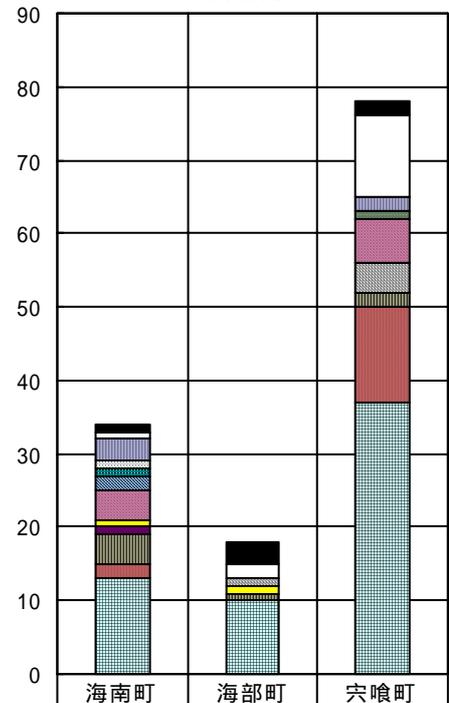


単位:人(重複有)

( ) 専門分野

- ・ 3町ともに農業が最も多く、海南町は約4割、海部町は約6割、穴喰町は約5割が農業を専門としている。
- ・ 海南町は、34人中農業が13人で、漁業と工芸が各4人、山岳・登山が3人となっている。
- ・ 海部町は、17人中農業が10人で、マリッジジャーが2人、漁業、野鳥、自然観察が各1人となっている。
- ・ 穴喰町は、72人中農業が37人で、林業が13人、マリッジジャーが11人となっている。

専門分野



不明	1	3	2
マリッジジャー	1	2	11
山岳・登山	3	0	2
町並み探訪	0	0	1
史跡	1	0	0
滝	1	0	0
キャンプ	2	0	0
工芸	4	0	6
自然観察	0	1	4
野鳥	1	1	0
天文	1	0	0
漁業	4	1	2
林業	2	0	13
農業	13	10	37

単位:人(重複有)

【人材調査リスト】

人材調査にあたっては次の名簿をもとに集計

南阿波よくばり体験観光インストラクターの応募者  
海南町・海部町・穴喰町

下灘地域(海陽町)エコツアー人材候補者リスト

海南支所管内エコファーマー名簿

体験農業等受け入れ等で指導経験がある農家

人材認定制度人材情報(グリーン・ツーリズム インストラクター/自然体験活動指導者/阿波の達人)

### ・問題点の整理

整理した人材の現状から問題点について整理した。

#### ( ) 性別の偏り

女性の人材が男性に比べ極端に少ない。

#### ( ) 活動フィールドの偏り

川をフィールドとする人材が他の山や海と比べ極端に少なく、実践できる活動内容（プログラム）に偏りが生じる。また、活動フィールドを特定できる人材が少ない。

#### ( ) 専門分野の偏り

専門分野別に見ると、農業、林業、マリンレジャー以外の専門分野の人材が少なく、実践できる活動内容（プログラム）に偏りが生じる。尚、農業の人材が極端に多くなっているのは、徳島県のエコファーマーに認定されている人材を計上したことに起因している。

#### ( ) 人材情報の不足

情報源ごとに集められた情報内容に格差があるとともに、実践できる具体的な活動内容や過去の実績等の統一された情報が乏しく、人材の特性や資質及び能力等の的確な把握が困難である。

## (2) 課題と対応方針の整理

明らかにした問題点から課題を整理し、解決のための対応方針を次のとおり整理した。

### ・地域住民への啓発

下灘地域の特性を活かしたツアーを提供するためには、地域に精通した住民の積極的な参画が重要である。地域住民に対してエコツーリズム推進の目的やその効果について、十分な理解を得るとともに、地域住民ならではの持ち得る魅力や能力に対する意識付けが必要である。このことから、人材のデータベース化に先立ち、運営組織を立上げ、エコツーリズムについての理解を得るための普及啓発を推進する。

### ・多様な人材の確保と育成

多様なプログラムを企画し、魅力あるツアーとするためには、多様なニーズに対応したプログラムに加え、様々な分野の人材確保と各プログラムに適した人材として育成する必要がある。このことから、人材のデータベース化とともに、能力の維持向上を促す仕組みや、資質向上のための継続的な人材育成の制度化を推進する。

### ・適切な調査と情報管理

プログラムの内容を充実させ、魅力あるツアーを企画・運営するためには、ツアーや目的に応じた人材を投入することが重要であり、そのためには、判断材料となる有用な情報を効率よく的確に収集、整理できる仕組みづくりが必要である。このことから、目的に応じて必要な情報種別を整理し、人材の区分や能力の評価システムを構築し、継続的改善を図る。

## 2. 先進事例の調査と整理

人材情報及びデータベース化の検討に先立ち、エコツーリズムに類似する事業の人材に関する情報管理について調査した。

調査結果から、望ましい情報管理のあり方を検討し、制度化の指針を示した。

### (1) 類似の人材登録に関する現状

#### ・エコツーリズム及び類似する先進事例

エコツーリズムに加え、類似する「グリーンツーリズム」「自然体験活動」等の先進事例を調査し、ガイドの活用や育成等の現状を整理した。

#### ( ) ガイドの活用や育成等の整理

プログラムを受入れるガイドは、ツアーを実施している地域内(市町村及び県内)の住民や企業・団体等が担っている。また、ガイドの育成については、外部から専門講師を招いた養成講座の開催や、人材認定の資格取得を推進するなど、半数以上の事例で人材育成に何らかの対策を講じている。

インターネット上での人材情報の公開状況は、ほとんどの事例で公開されておらず、人材に関する情報は得られない状況となっている。公開されている事例では、ガイドの氏名と申込み先等の連絡先のほか、体験内容やその魅力など参加者へのメッセージが公開されている。

事例の中にあげられている課題には、人材の資質向上や資格取得の難しさのほか、行政と住民及び都市と農山漁村のコーディネーターの養成や、ガイド間の意識の差異などがあり、半数以上の事例で人材育成が課題となっている。

ガイドの活用は、地元住民を主体に人材を発掘し、ガイドとして育成する対策を講じているものの、資質向上は難しいものとなっていることがうかがえる。

#### ( ) 先進事例の概要

エコツーリズムに関する先進事例の現状について、「都市と農山漁村の共生・対流 2004：(財)地域活性化センター編」や各事例のホームページから調査し、参考となる下記の ~ のエコツーリズム及び類似する先進事例の概要を表 1(8頁)に整理した。各事例の詳細については、表 2~7(9~14頁)に示す調査票のとおりである。

諸塚村のエコツアー(宮崎県)

座間味村のエコツアー(沖縄県)

安心院町グリーンツーリズム(大分県)

白神・ツーリズム観光事業(青森県)

黒松内ぶなの森自然学校(北海道)

いしかわ自然学校(石川県)

表 - 1 エコツーリズム及び類似する先進事例の概要一覧表

名称	諸塚村のエコツアー	座間味村のエコツアー	安心院町グリーンツーリズム	白神・ツーリズム観光事業	黒松内ぶなの森自然学校	いしかわ自然学校
所在地 (県及び市町村名)	宮崎県諸塚村	沖縄県座間味村	大分県安心院町	青森県鮭ヶ沢町	北海道黒松内町	石川県(県内の自然・森林公園)
運営主体(組織)	もろつかエコツーリズム研究会(愛称:まちむら応援倶楽部)	座間味村/村内民間企業	安心院町グリーンツーリズム研究会	白神・ツーリズム実行委員会	ぶなの森自然学校運営協議会	石川県
組織体制 (組織種別等)	官民一体の取組み	官民一体の取組み	官民一体の取組み	官民一体の取組み	官民一体の取組み	官民一体の取組み
活動目的	地域間交流	環境保全/地域間交流	まちづくり	人材育成/地域間交流	環境教育/地域間交流/人材育成	環境保全/人材育成
主な活動内容	エコツーリズムに関する活動 交流事業の受入れに関する活動	シュノーケル、シーカヤック、 ホエールウォッチング等の海洋レクリエーションの普及とこれらを通じた海洋環境保全の啓発	安心院方式による会員制の農村泊 (農村の一般家庭での宿泊)	山、川、海の体験滞在型観光(白神山地トレッキング、漁船乗船体験、鮎釣り体験、農産物収穫体験、酪農体験、田舎文化体験など)	自然体験キャンプ、一般観光向けガイドツアー、指導者研修講座など	エコロジーキャンプ、自然観察会や自然教室、個人及び学校団体向けの体験学習プログラム、指導者養成事業など
ガイド (受入れ体制)	村内の住民	村内の住民、団体及び企業	町内の民家	白神山地ガイドクラブ、農業者を育成	黒松内町で訓練を受けたインタープリター	同県、同校主催の講座修了者等
人材育成	情報なし	情報なし	大分・安心院グリーンツーリズム実践大学 農村のグリーンツーリズムの担い手育成と地域へのグリーンツーリズムの普及を目指す	森林インストラクターを招いた講習会の開催/森林インストラクターの資格取得/グリーン・ツーリズムインストラクターの資格取得	人材育成事業 自然の知識や野外での指導方法/カウンセリング/リスクマネジメント/実務研修生の受け入れ	指導者養成(インストラクタースクール プログラムをプロデュースできる指導者の育成 / ボランティア養成セミナー/スノーケリング指導者研修会/里山保全活動リーダー養成講座/野外リーダー養成講座) 同学校の指導者と一般的な指導者の養成
ホームページによる 人材情報の公開状況	公開なし	公開なし	14民家の紹介 公開情報:氏名、連絡先(TEL、FAX、ホームページ)、メッセージ、写真	公開なし	公開なし	公開なし
課題	休日に集中し負担/主体的に取り組む意欲の高い集落でなければ本格的な取組みは難しい/都市と山村の相互扶助の体制と仕組みづくり	自然環境の保全	全国的な知名度が上がる一方、町民全体による盛り上りの欠如/役所内の全庁的な支援体制 (事業継続に戸惑う民家に対して、研究会会長が何度も懇願することで継続を決めた民家もある。)	指導者の資質向上/資格取得の難しさ/魅力ある体験メニューの充実/地元団体と連携した旅行商品の開発	財政面 経営感覚と行政に頼らない体質 / 人材育成 都市と農山漁村の間を取り持つコーディネーターの養成が大切	企画のマンネリ化傾向/活動に対するスタッフ間の意識の差/ボランティアスタッフの拡大と組織化(法人化)を目指す体制づくり/行政と一般市民のコーディネーター的役割/知名度の向上と参加者の確保
詳細調査票	表 - 2	表 - 3	表 - 4	表 - 5	表 - 6	表 - 7

表 - 2 諸塚村のエコツアー調査票

区分	種別	細 別	備考
名 称	諸塚村のエコツアー		
運営主体 (組織)	諸塚エコツーリズム研究会(愛称「まちむら応縁倶楽部」) (しいたけの館21・諸塚村企画課・諸塚村観光協会事務局)		
所在地	〒883-1301宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068(しいたけの館21)		
連絡先	TEL : 0982-65-0178 FAX : 0982-65-0189	E-mail : ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp URL : http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp/01home_f.htm	
活動の概要	活動目的	地域間交流 諸塚にあるもの、諸塚そのものの魅力を掘り起こし、その地域資源を生かすエコツーリズムの視点で、諸塚型体験交流事業を推進するために、経験と知恵を生かす人材の育成を図り、我々の歴史と文化に誇りを持ち、独自の体験交流事業を協力して開発する	
	活動内容	エコツーリズムに関する調査、研究/村内のエコツーリズムの普及に関する活動/交流事業の受入れに関する活動/その他、この会の目的を達成するための活動	
	体験内容	体験交流ツアーなど地域資源、地場素材を活用した環境共生型イベントを企画し、単なる観光に終わらない、人にも、地球にも優しい生活提案型の交流運動/宿泊や食事の準備も体験メニューとなる/諸塚やま学校、大豆応縁倶楽部、環境を学ぶエコツアーなど	
	組織体制	組織種別 民間主体の任意団体 村内外を問わず、その趣旨と目的に賛同する団体または個人 役員構成 会長/副会長3名/理事3名/書記長/会計/会計監査2名:計11名	
	その他	事業費:3,400千円(県補助/参加費その他) 実施場所:諸塚村内全域 H14年度実績:参加人数700人	
人材の概要	ガイド	村内の住民 20人程度の少人数での受入れ 休日に集中し、負担になる/主体的に取り組む意欲の高い集落でなければ本格的な取り組みは難しい	
	情報人材	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし	
	育人人材	情報なし	
	活用の仕	情報なし	
その他 (課題等)	都市と山村の相互扶助 山村には、豊かな自然と共生し、相互扶助する地域共同体の精神を活かして自ら主体的に地域社会を研究し、自らの未来を自ら創造する社会をつくり、「こころ」と「からだ」で体験する諸塚型エコツアーの舞台にする/相互扶助ができる体制と仕組みを創れるように、山側からの期待のアピールと自らの地道な努力を続ける		

調査先:ホームページ/文献 調査時期:2005年1月

表 - 3 座間味村のエコツアー調査票

区分	種別	細 別	備考
名 称	座間味村のエコツアー		
運営主体 (組織)	座間味村(座間味村 むらおこし課) / 座間味村内民間企業		
所在地	〒901-3402 沖縄県島尻郡座間味村座間味109(座間味村役場)		
連絡先	TEL : 098-987-2311 FAX :	E-mail : URL : <a href="http://www.vill.zamami.okinawa.jp">http://www.vill.zamami.okinawa.jp</a>	
活動の概要	活動目的	環境保全 / 地域間交流 エコツーリズムで大自然との一体感を全身で味わう	
	活動内容	シュノーケル、シーカヤック、ホエールウォッチング等の海洋レクリエーションの普及とこれらを通じた海洋環境保全の啓発	
	体験内容	ダイビング / シュノーケリング / シーカヤック / ウォーキング / フィッシング / ホエールウォッチング / キャンプ / 修学旅行 / エコツーリズム	
	組織体制	情報なし	
	その他	事業費 : 個々の事業者による経営 (各体験費用) 実施場所 : 座間味村近海 H14年度実績 : 参加人数 90,446人	
人材の概要	ガイド	村内の住民 / 団体及び企業(ホエールウォッチング協会等)	
	情人報材	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし	
	育人材	情報なし	
	仕組の	情報なし	
その他 (課題等)	サンゴやサカナのような豊かな自然を守る対策として、遊泳エリアの移動や最悪の事態にはポイント的にクローズする / 村民がサンゴ礁保全やゴミの問題について現状を把握し、対策を考え、多くの人たちに協力してもらえるよう呼びかける / 今残る豊かな自然を大切に、体験滞在型観光地としての魅力アップを図る		

調査先 : ホームページ / 文献 調査時期 : 2005年1月

表 - 4 安心院町グリーンツーリズム調査票

区分	種別	細 別	備考
名 称	安心院町グリーンツーリズム		
運営主体 (組織)	安心院町グリーンツーリズム研究会 (安心の里交流研修センター)		
所在地	〒872-0521 大分県宇佐市安心院町大字下毛802		
連絡先	TEL : 0978-44-1500 FAX : 0978-44-0353	E-mail : japan-ajimu-gt@basil.ocn.ne.jp URL : http://www3.coara.or.jp/~ajimu/mokuji.html	
活動の概要	活動目的	まちづくり	<p>組織体制</p>
	活動内容	安心院方式による会員制の農村民泊(農村の一般家庭での宿泊)	
	体験内容	各民家が提供する内容 田舎暮らし/魚釣り/野菜の収穫/家庭料理/無農薬野菜/農産物加工 など	
	その他	事業費: 2,000千円(国補助、町補助) 実施場所: 安心院町内民家他 H14年度実績: 参加人数2,500人	
人材の概要	ガイド	町内の民家(14民家)	
	人材情報	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 氏名、連絡先(TEL、FAX、ホームページ)、メッセージ、写真	
	人材育成	大分・安心院グリーンツーリズム実践大学 農村のグリーンツーリズムの担い手育成と地域へのグリーンツーリズムの普及を目指す	
	活用の仕組み	受入れ民家へ直接連絡	
その他 (課題等)	安心院町グリーンツーリズムの知名度が上がる一方、身近なところで盛り上がり欠ける/役場内でも全庁的な支援体制ができているとは言いがたい/町民が一丸となってグリーンツーリズムに取り組めるように目指す/事業継続に戸惑う民家に対して、研究会会長が何度も懇願することで継続を決めた民家もあり、そうした人材がいなければ、今のこの農村民泊はなかった		

調査先: ホームページ/文献 調査時期: 2005年1月

表 - 5 白神・ツーリズム観光事業調査票

区分	種別	細 別	備考
名 称	白神・ツーリズム観光事業		
運営主体 (組織)	白神・ツーリズム実行委員会 (青森県鱒ヶ沢町役場・農林漁業体験:農林課・ガイド:観光商工課)		
所在地	〒038-2792 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字本町209-2(町役場)		
連絡先	TEL:0173-72-2111(役) FAX:0173-72-2374(役)	E-mail: ajikanko@ajigasawa.net.pref.aomori.jp (観光商工課) URL: http://www.ajigasawa.net.pref.aomori.jp/ greentourism/index.html	
活動の概要	活動目的	人材育成 / 地域間交流 山、川、海を一つの町で体験できる利点を利用した施策であり、宿泊者の増加や地域の活性化と併せて観光産業の振興を図ることを目的とする	
	活動内容	白神山地を中心に、自然、人、文化資源を有効に活用・連動させ、白神にこだわった人材の育成、産業振興、観光交流の推進、環境に配慮した景観づくり等による観光交流拠点づくり	
	体験内容	山、川、海の体験滞在型観光 白神山地トレッキング(世界遺産地域の周辺部に5つの基本コース / 「あじがさわ白神山地ガイド倶楽部」のメンバーの案内 / 冬期間: コース限定で実施 / 通年のトレッキング) グリーン・ツーリズム(漁船乗船体験 / アユ釣り体験 / リンゴ作業 / スイカ収穫体験 / 乳搾り等酪農体験 / 伝統文化体験 / 細工 / そば打ち / 草木染め等)	
	組織体制	以前から白神山地のガイドやグリーン・ツーリズムを実施していた団体や個人	
	その他	事業費: 1,500千円(財団補助 / 町助成) 実施場所: 鱒ヶ沢町全体 H14年度実績: 参加人数 1,507人	
人材の概要	ガイド	白神山地ガイドクラブ / 農業者を育成	
	情報人材	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし	
	人材育成	ガイドの資質向上: 森林インストラクターを招いた講習会の実施 / 各種講習会への参加 / 森林インストラクターの資格取得 / 1年間の成果(森林インストラクター1名、森林活動ガイド3名を誕生) グリーン・ツーリズム: 指導者の人材育成 / 8名のグリーン・ツーリズムインストラクターの誕生	
	仕組の活用	情報なし	
その他 (課題等)	組織立ち上げの際、各団体・個人に趣旨の説明会や講演会の開催、個別に説明し賛同を得る / 宿泊施設や旅行代理店等との連携 / パンフレットやホームページによる効果的なPR / 指導者の資質向上のためインストラクター等の資格取得に取り組むが、講習会や試験が難しく悪戦苦闘 / ガイドの育成と魅力的な体験メニューの充実 / 地元と連携した「白神・ツーリズム」を取り入れた旅行商品開発など実施		

調査先: ホームページ / 文献 調査時期: 2005年1月

表 - 6 黒松内ぶなの森自然学校調査票

区分	種別	細 別		備考
名 称	黒松内ぶなの森自然学校			
運営主体 (組織)	黒松内ぶなの森自然学校運営協議会			
所在地	〒048-0127 北海道寿都郡黒松内町南作開76			
連絡先	TEL : 0136-77-2012 FAX : 0136-77-2020	E-mail : buna_ns@d2.dion.ne.jp URL : http://www.d2.dion.ne.jp/~buna_ns/		
活動の概要	活動目的	環境教育 / 地域間交流 / 人材育成	組織体制 	
	活動内容	体験学習事業 / 人材育成事業 / 地域間交流事業		
	体験内容	ブナ林ガイドウォーク / 一般観光向けガイドツアー / 自然体験キャンプ / 貝化石採集・化石標本作り / 登山		
	その他	事業費 : 約15,000千円 (町補助、参加費その他) 実施場所 : 黒松内ぶなの森自然学校 H14年度実績 : 参加人数延べ3,200人		
人材の概要	ガイド	黒松内町で訓練を受けたインタープリター(人と自然の橋渡し役)		
	人材情報	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし		
	人材育成	人材育成事業 自然の知識や野外での指導方法 / カウンセリング / リスクマネジメント / 事務局職員として実務研修生の受け入れ(研修終了後はスタッフとして自然学校に残るか、他の活動団体に加入、或いは自らが自然学校を設立するなどして、それぞれがネットワークで結ばれることを目指す)		
	活用の仕組み	情報なし		
その他 (課題等)	環境学習拠点及び地域の交流拠点としての運営 / 自然学校のコンセプト「地域貢献」 / 公共性と営利面のバランス / 公共・非営利組織における経営感覚 / 行政に頼らない体質 / 都市と農山漁村の交流を深めていける間を取り持つコーディネーターの養成			

調査先 : ホームページ / 文献 調査時期 : 2005年1月

表 - 7 いしかわ自然学校調査票

区分	種別	細 別	備考
名称	いしかわ自然学校		
運営主体 (組織)	いしかわ自然学校事務局(石川県環境安全部自然保護課)		
所在地	〒920-0962 石川県金沢市広坂2-1-1(県民エコステーション内)		
連絡先	TEL : 076-232-3991 FAX : 076-232-3992	E-mail : URL : <a href="http://www.pref.ishikawa.jp/shizengakkou/">http://www.pref.ishikawa.jp/shizengakkou/</a>	
活動の概要	活動目的	環境保全 / 人材育成 (自然を大切に思い行動する 県民の増加 / 子どもの健全 育成・主体的学習への寄与 / 自然を資源とした環境配 慮型地域振興)	<p>組織体制</p>
	活動内容	エコ-キャンプ / 自然のまなび 舎 / いしかわ子ども自然学 校 / 指導者養成事業	
	体験内容	ガイドトレッキング / 環境 保全活動 / 自然観察会 / 自 然教室 / 里山保全ワーキン グホリデイ / 登山 / 溪流探 検 / 山菜取り / カヌー / ス ノーケリング / 森の家づく り / 昆虫採集	
	その他	事業費 : 1,186千円 (一般財源) 実施場所 : 夕日寺健民自然園、森林公園等5施設 H14年度実績 : 参加人数延べ291名	
人材の概要	ガイド	同県、同校主催の講座修了者等	
	情人 報材	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし	
	人材 育成	指導者養成 (インストラクター スクール プログラムをプロデュ ースできる指導者の育成 / ボ ランティア養成セミナー / ス ノーケリング 指導者研修会 / 里山保全活動リーダー養成講 座 / 野外リーダー養成講座) 同学校の指導者と一般的な指 導者の養成	
	活 用の 仕 組 の	情報なし	
その他 (課題等)	ボランティア会員の拡大と法人等の組織化を目指す体制づくりを目指す / 行政と一般市民のコーディネーターの役割を担う / 魅力あるプログラムの提供と参加者の確保 / パンフレットや募集チラシの配付、マスコミへの資料提供 / 参加者の確保 / 民間団体と行政の役割分担 / インストラクタースクールなどにより指導者の質の向上 / 魅力あるプログラムの開催 / 民間団体を主体とした地域の活性化にもつながるような自然学校		

調査先 : ホームページ / 文献 調査時期 : 2005年1月

## ・人材認定制度に関する先進事例

「自然体験及び環境教育・学習関連の人材認定制度」の先進事例を調査し、人材の役割及び認定制度等について整理した。

### ( ) 人材の役割及び認定制度等の整理

人材の登録規定は、半数以上の事例でコース（役割）別のカリキュラムの受講と認定試験が設けられており、また、1～3年間で更新が必要となっている。

役割分担は、半数以上の事例で3～5種類に分担されており、概ね、「案内」、「指導」、「企画・運営」に分けられ、更には、少数ではあるが、人材を育成する役割も設定されている。

インターネット上での人材情報の公開は、半数以上の団体で行われている。また、少数ではあるが、登録されている内容での検索が可能となっている。主な公開情報は、氏名、所属団体名、申込みや問い合わせ等の連絡先で、その他、得意な活動や自己紹介などの項目が公開されている。

人材の役割及び認定制度は、「案内」、「指導」、「企画・運営」、「人材育成」の4つの役割に分担し、各カリキュラムの受講と更新制度を設け、人材の資質や能力の維持と向上を促す制度となっている。また、人材情報については、データベース化により複数条件での検索を可能とし、インターネットを利用しての自己PRを兼ねた情報公開がなされている。

### ( ) 先進事例の概要

自然体験及び環境教育・学習に関する人材認定制度等の先進事例の現状について、「環境教育・環境学習推進のための自然体験活動指導者育成システムの構築調査報告書：環境省自然環境局」や各事例のホームページから調査し、参考となる下記の～の人材認定制度に関する先進事例の概要を表 - 8 (16 頁)に整理した。各事例の詳細については、表 - 9～14(17～22 頁)に示す調査票のとおりである。

グリーン・ツーリズムインストラクター(財団法人都市農山漁村交流活性化機構)

インタープリター(NPO法人国際海洋自然観察員協会)

自然体験活動指導者(NPO法人自然体験活動推進協議会)

自然学校指導者(社団法人日本環境教育フォーラム)

北海道アウトドア資格制度(北海道)

阿波の達人(徳島県)

表 - 8 人材認定制度に関する先進事例の概要一覧表

認定制度名	グリーン・ツーリズム インストラクター	インタープリター	自然体験活動指導者	自然学校指導者	北海道アウトドア資格制度	阿波の達人
組織名	財団法人 都市農山漁村交流活性化機構	NPO法人 国際海洋自然観察員協会	NPO法人 自然体験活動推進協議会	社団法人 日本環境教育フォーラム	北海道	徳島県
所在地 (県及び市町村名)	東京都中央区	東京都中央区	東京都新宿区	東京都新宿区	北海道札幌市中央区	徳島県徳島市
登録規程	コース別カリキュラムの受講・認定試験(3年更新)	コース別カリキュラムの受講(3年更新)	コース別カリキュラムの受講(1~3年更新)	入学審査/OJT(自然学校実習)/基礎課程・専門課程講座(40日間)/修了試験	個人資格制度:筆記試験(基礎/専門)・実技試験(専門)・試験(2年更新) 登録事業者制度:書類審査・現地審査(2年更新)	情報なし
分野分類	分類なし	情報なし	活躍フィールド/アウトドアスポーツ/地球の仲間とのふれあい/ふるさとの暮らし/手の仕事/エコロジカルプログラム/山村留学/教育プログラム/パッケージプログラム	分類なし	山岳/自然/カヌー/ラフティング/トレイルライディング 個別の資格試験有	自然の達人/食の達人/伝統・伝説の達人/もてなしの達人/技の達人
役割分担	エスコーターコース(入門編)「地域案内人」/インストラクターコース(実践編)「体験指導者」/コーディネーターコース(上級編)「企画立案者」	コミュニケーションリーダー(1star)案内助手/コミュニケーション・インストラクター(2star)案内・指導/コミュニケーション・コーディネーター(準3star):企画・運営/インタープリター(3star) 準3star までの養成講座の企画・運営/チーフ・インタープリター(4star) 3star の養成講座の企画・運営/ジェネラル・インタープリター(5star): 4star の養成講座の企画・運営、海洋自然体験活動での組織経営	自然体験活動リーダー(案内)/自然体験活動ジュニアリーダー/自然体験活動インストラクター(指導)/自然体験活動コーディネーター(企画・運営)/自然体験活動トレーナー1種(リーダー養成講座の企画・コーディネート・運営・進行・講師)/自然体験活動トレーナー2種(インストラクター及びコーディネーター養成講座の企画・コーディネート・運営・進行・講師)	自然学校指導者(プログラムを企画・運営)/自然学校管理指導者(自然学校の組織運営) 管理指導者は今後検討	専門分野ごとに2~3段階設定 マスター(指導)/ガイド(単独で活動の指導)/ジュニア(ガイドやマスターの監督のもと、ガイド業務) マスターは検討中	分担なし
ホームページによる 人材情報の公開状況	検索項目:住所/活動内容等 公開情報:氏名/性別/住所/所属/修了コース/受講時の活動状況/得意な活動分野/顔写真	公開なし	検索項目:所属団体/住所/活躍フィールド/指導者の役割/得意な対象者/指導者年齢/主な活動等 公開情報:氏名/ニックネーム/顔写真/指導者資格/住所/得意対象/自己紹介/ホームページ/活動報告/所属団体(団体名・得意フィールド・問合せ先・主な活動)	公開なし	検索項目:なし 公開情報: 個人の場合 氏名/所属名/連絡先(住所・TEL・FAX・E-mail)/顔写真 事業者の場合 事業者名/ホームページ/連絡先(住所・TEL)	検索項目:なし 公開情報:氏名/所属/顔写真/達人からのコメント(活動等の紹介)/問合せ先/施設利用や体験の料金
活用の仕組	機構経由で紹介/直接依頼	情報なし	所属団体等に直接依頼	派遣要請	仕組みなし	問い合わせ先に任意に連絡
詳細調査票	表 - 9	表 - 10	表 - 11	表 - 12	表 - 13	表 - 14

表 - 9 グリーン・ツーリズム インストラクター調査票

区分	種別	細 別	備考
組織名	財団法人 都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)		
所在地	〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-3 不二ビル8F		
連絡先	TEL : 03-3548-2715 FAX : 03-3276-6771	E-mail : school@kouryu.or.jp URL : http://www.kouryu.or.jp/	
活動	活動目的	都市住民と農山漁村の双方の志向と意向を踏まえた、都市と農山漁村の交流の推進/都市と農山漁村が一体となった地域活性化のための国民的規模の運動の展開/農山漁村の活性化を図り、国土の均衡ある発展及び自然と調和のとれた豊かでうるおいのある社会の実現	
	活動内容	都市と農山漁村の交流促進、農山漁村地域の活性化等に関する調査研究/農山漁村における情報の収集及び都市住民等への提供/都市住民のニーズの農山漁村への提供及びこれに基づく農山漁村地域活性化に向けた指導助言/体験農園等農林漁業体験施設の運営管理及び整備に関する支援、研修/農林漁業体験民宿業の健全な育成のための登録制度の運用/体験農林漁業の普及推進/都市と農山漁村の交流促進、農林漁業・農山漁村活性化のための人材育成/都市と農山漁村の交流促進、農林漁業・農山漁村活性化に関する普及宣伝/畜産が立地する農山漁村地域における営農環境の確保並びに農山村地域及び農畜産業の理解の増進を図るための手法開発	
	組織体制	組織種別 財団法人 組織構成 総務部/企画部/体験農業推進部/都市交流推進部/情報交流推進部/地域活性化支援推進部/ふるさとプラザ東京 役員構成 名誉顧問/理事長/特別顧問兼副理事長/副理事長3名/専務理事/常務理事60名:計67名	
人材活用	登録規程	<b>グリーン・ツーリズム インストラクター</b> コース別カリキュラムの修了 修了証 認定試験合格 認定証・登録(更新なし) <以下は希望者のみ>自然体験活動指導者(CONEリーダー等)の登録(3年更新)	
	分野分類	分類なし(得意な活動分野として任意に登録)	
	役割分担	エスコーターコース(入門編): 農林漁業の体験や地域景観などをわかりやすく紹介し、地域の楽しみ方を伝える「地域案内人」 インストラクターコース(実践編): 農林漁業体験をはじめとする様々な自然体験活動等の指導を行う「体験指導者」 コーディネーターコース(上級編): 農林漁業体験をはじめとする様々な体験活動等を企画・立案し、地域活性化に向けた調整を行う「企画立案者」	
	活用の制度	制度なし(登録の制度はあるが、活用の制度は特に認められない。)	
	活用の仕組み	インターネットで検索 住所/活動内容等 登録(公表)内容 氏名/性別/住所/所属/修了コース/受講時の活動状況/得意な活動分野/顔写真 活用の仕組み まちむら交流きこう経由で紹介もしくは直接依頼	

調査先: ホームページ

調査時期: 2005年1月

表 - 10 インタープリター調査票

区分	種別	細 別	備考
	組織名	特定非営利活動法人 国際海洋自然観察員協会(PACI)	
	所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13 中村ビル8F IC・K18内	
	連絡先	TEL : 03-5537-0041 FAX : 03-5537-0040	E-mail : paci@ecoquest.co.jp URL : http://www.ecoquest.co.jp/paci/
活動	活動目的	海洋自然のメッセージを伝えるインタープリターの育成/インタープリターがプロとして社会的に自立し、活躍できる基盤環境の整備/世界のインタープリターのネットを構築し、海洋自然の保全活動を通して地球の環境保全に貢献する	
	活動内容	リーダーの養成(イルカガイド入門・スペシャリティープログラム)/教育普及(助成金事業・ボランティア事業)/広報(書籍発刊・ホームページ開設・会報誌発行)	
	組織体制	組織種別 NPO法人 組織構成 情報なし 役員構成 情報なし	
人材活用	登録規程	<b>インタープリター</b> コース別養成講座の受講 登録(詳細は不詳) 自然体験活動指導者(CONEリーダー等)への登録も可能(3年更新)	
	分野分類	情報なし	
	役割分担	コミュニケーション・リーダー(1star): 日帰りで10人程度を身近な海洋自然の体験活動に助手として案内できるレベル(CONEリーダーに登録可能) コミュニケーション・インストラクター(2star): 身近な海洋自然に少人数を案内し、自然体験活動の指導ができるレベル コミュニケーション・コーディネーター(準3star): 身近な海洋自然をフィールドに自然体験活動の企画・運営ができるレベル インタープリター(3star): プロのインタープリター、インストラクター、準3starまでのリーダーの養成講座の企画・運営ができるレベル(CONEトレーナー1種に相当) チーフ・インタープリター(4star): 3starの養成講座の企画・運営ができるレベル ジェネラル・インタープリター(5star): 4starのインタープリター養成講座の企画・運営、海洋自然体験活動での組織経営ができるレベル	
	活用の制度	情報なし	
	活用の仕組	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし 活用の仕組 情報なし	

調査先 : ホームページ

調査時期 : 2005年1月

表 - 11 自然体験活動指導者調査票

区分	種別	細 別	備考
組織名	特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会(CONE)		
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿5-7-8 らんざん5 ビル6F		
連絡先	TEL : 03-5363-2501 FAX : 03-5363-2502	E-mail : info@www.cone.ne.jp URL : http://www.cone.ne.jp/	
活動	活動目的	自然体験活動の調査研究や普及・啓発などを通して、子ども、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動の推進 / あらゆる民間機関、団体と企業および政府・地方公共団体とのパートナーシップの確立 / 各団体が独自に実施してきた指導者養成制度をもとに、互いの連携を図りながら信頼できる指導者の養成および活用につながる制度の確立と運用	
	内活動	自然体験活動指導者の登録・活用 / 様々な交流支援事業	
	組織体制	組織種別 NPO法人 文部省、環境省、農水省、林野庁、国土交通省等のサポートあり 組織構成 情報なし 役員構成 会長 / 顧問3名 / 代表理事 / 副代表理事3名 / 総務担当理事 / 理事31名 / 監事2名 / 評議員31名 : 計73名	
人材活用	登録規程	<b>自然体験活動指導者</b> 自然体験活動指導者養成事業の実施団体として認定された団体が「自然体験活動指導者養成共通カリキュラム」に基づき認定各実施団体が開催する講座の受講 同団体を通して登録(3年及び1年更新(詳細は役割分担参照))	
	分野分類	活躍フィールド 山 / 森林 / 野原 / 海 / 河川・湖 / 空 / むら / まち / 島 / 室内 / 温泉 アウトドアスポーツ キャンプ / スカウト / 登山 / ハイキング / 冒険体験 / スキー / スノーボード / サイクリング / マウンテンバイク / 乗馬 / カヌー / カック / スノーケリング / ダイビング / ラフティング / つり / ボートヨット / グライダー / スカイダイビング 地球の仲間とのふれあい 動物 / 鳥 / 昆虫 / 魚 / 植物 / 樹木 / 草花 / 天文・宇宙 / 風土 ふるさとの暮らし 稲作 / 畑作 / 酪農 / 林業体験 / 炭焼き / きのこと・山菜 / 海釣り / 河川 / 養殖 / 加工 / 体験民宿 / 料理 / 生活 / 工芸・芸能 / 祭 / ハーブ 手の仕事 木工 / 竹・つる細工 / 染め・織り / 陶芸 / 料理 エコツアー / カルデアム 自然学校 / エコツアー / 環境教育 山村留学 通年合宿 / 通学合宿 教育プログラム 野外教育 / 環境教育 / 冒険教育 パッケージツアー / ナチュラル / プロジェクトラーニング・ツアー / プロジェクトワイルド / プロジェクトアドベンチャー / オビス / アース・エデュケーション / アイランド / ジェム	
	役割分担	自然体験活動リーダー(18歳以上):日帰りで10人程度の少人数を身近な自然に案内できる / 共通カリキュラム(21時間) / 3年更新 / 上位受験資格 2年間で30日以上の実験・活動実施記録の提出など 自然体験活動ジュニアリーダー(16歳以上):上記リーダーと同様 自然体験活動インストラクター(20歳以上):身近な自然に少人数を案内する自然体験活動の指導ができる / 共通カリキュラム(23時間)及びレベルテスト実施 / 3年更新 / 上位受験資格 3年間で45日以上の実験・3年間のレポート提出など 自然体験活動コーディネーター(23歳以上):身近な自然をフィールドにした自然体験活動の企画・運営ができるリーダー・インストラクターの活躍する場を作る / 共通カリキュラム(19時間40分)及びレベルテスト実施 / 3年更新 / 上位受験資格 指導者養成に関わる実績30日以上 / 登録後2年間の活動実績など 自然体験活動トレーナー1種(25歳以上):リーダー養成講座の企画・コーディネート・運営・進行・講師(一部)ができる人 / CONE主催のトレーナー1種養成講座(10時間・試験を含む) / 1年更新 / 上位受験資格 リーダー養成講座を3回実施など 自然体験活動トレーナー2種(28歳以上):インストラクターおよびコーディネーター養成講座の企画・コーディネート・運営・進行・講師(一部)ができる人 / CONE主催のトレーナー2種養成講座(10時間)(OJTでの評価あり) / 1年更新	
	活用の制度	制度なし(登録の制度はあるが、活用の制度は特に認められない。)	
活用の仕組	インターネットで検索 所属団体 / 住所 / 活躍フィールド / 指導者の役割 / 得意な対象者 / 指導者年齢 / 主な活動等 登録(公表)内容 氏名 / ニックネーム / 顔写真 / 指導者資格 / 住所 / 得意対象 / 自己紹介 / ホームページ / 活動報告 / 所属団体(団体名・得意フィールド・問合せ先・主な活動) 活用の仕組 所属団体等に直接依頼		

調査先 : ホームページ / 報告書 調査時期 : 2005年1月

表 - 12 自然学校指導者調査票

区分	種別	細 別	備考
	組織名	社団法人 日本環境教育フォーラム(J E E F)	
	所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿5-10-15 ツインズ新宿ビル4F	
	連絡先	TEL : 03-3350-6770 FAX : 03-3350-7818	E-mail : kanakubo@jeef.or.jp URL : http://www.jeef.or.jp/first/
活動	活動目的	21世紀に夢を育むことのできる自然を残し、自然と向き合う楽しさを伝える / 自然とふれあう様々な活動を通して、地球全体が持続可能な社会となるための教育(環境教育)の普及発展をめざす / 環境教育にふれる機会を提供する(環境教育の普及) / 自然学校をもっとたくさんつくる(自然学校の普及) / 途上国に環境教育を広める(途上国環境教育支援)	
	活動内容	自然学校指導者・自然解説者等養成講座及びカリキュラム・教材作成 / 受託事業(子どもパークレンジャー・子ども大好きクラブ等) / 環境教育事業(日本・インドネシア・東アジア・日中韓協力) / 自然学校の運営及び設立 / 環境公開講座各種	
	組織体制	組織種別 社団法人 環境省所管 組織構成 企業部会 / 川の環境教育研究会 役員構成 会長 / 副会長 / 理事長 / 専務理事 / 常務理事 4名 / 理事 17名 / 監事 2名 / 顧問 3名 / 特別会員 4名 : 計34名	
人材活用	登録規程	<b>自然学校指導者</b> 募集(20歳以上対象) 入学審査(書類審査・面接・試験などによる選考) 開校式・オリエンテーション OJT(自然学校実習) OJTとは: プロとなるための試用期間 / 各自然学校(全国16校・徳島・NPO法人自然スクールTOEC)による実習受け入れ校において、自然学校のさまざまな運営や指導業務 / 実習受け入れ校の責任者からの一定評価を得たのち、OJTを修了し、次のステップである基礎課程、専門課程講座へと進む 基礎課程・専門課程講座(40日間) 修了試験 修了試験に合格すると、修了認定を受け、全課程を修了する 指導者登録 全課程を修了すると、JEEFが認める「自然学校指導者」として登録を申請することができる / 登録すると新設や既存の各自然学校からの指導者派遣要請等の依頼があった場合に、紹介を受けることができる	
	分類分野	分類なし	
	役割分担	自然学校指導者(本講座での養成対象) 自然学校におけるプログラム提供のための基礎的な知識と技術を有し、プログラムを企画、運営できる 自然学校管理指導者(当面実施の予定はありません) 自然学校における豊かな指導経験にもとづく高度な知識と技術を有し、自然学校の組織運営ができる	
	活用の制度	登録者には、新設や既存の各自然学校からの指導者派遣要請等の依頼があった場合に、紹介を受けることができる	
	活用の仕組	インターネットで検索 なし 登録(公表)内容 なし 活用の仕組 派遣要請	

調査先: ホームページ / 報告書 調査時期: 2005年1月

表 - 13 北海道アウトドア資格制度調査票

区分	種別	細 別	備考
組織名	北海道(企画振興部地域振興室地域政策課)		
所在地	〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目		
連絡先	TEL : 011-231-4111 FAX : 011-232-1053	E-mail : sogo.chisei1@pref.hokkaido.jp URL : http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-tstcs/chicho/index.htm	
制度の概要	趣旨	現状の問題:体験人口や関連ビジネスの急激な拡大 環境に対する配慮欠如 / 安全性、サービスの質の低下 北海道独自の資格制度の導入 個人資格制度 / 登録事業者制度 効果 人材の育成 / 産業の振興 / 自然環境の保全 / 地域の振興	
	定義	定義 道内の自然を対象とする / アウトドア活動に伴う安全の確保や自然環境の保護・保全等に配慮したガイド業務を行う / 本制度に基づく資格を認定されている 人物像 不安なく利用客を楽しませることができる / アウトドア活動に関する高度で専門的な知識・技術を有する / 自然を理解し、環境への配慮ができる / 北海道や自分の住む地域にこだわり、愛着を持っている / 職業・暮らし方に誇りを持っている	
	体制組織	組織種別 地方自治体 連携組織 NPO法人北海道アウトドア協会	
人材活用	登録規程	<b>北海道アウトドア資格制度</b> <b>1.個人資格制度</b> 基本方針による独学または研修 筆記試験(基礎 / 専門)・実技試験(専門) 3つの試験に合格 資格認定等委員会 認定(2年更新) 基礎分野 専門分野の取得と併せて一つの資格を構成 / 取得者には基礎分野合格証明書を発給(有効期間3年以内) / 受験資格:18歳以上 / 試験:筆記試験(道が定める「北海道アウトドアガイド育成標準カリキュラム」に基づく知識・技術・経験) 標準カリキュラムに対応した育成機関によるプログラムを履修した場合は免除 専門分野 5分野の区分 / 2~3段階のレベル / 取得者には区分別合格証明書を発給(2年更新) (詳細は役割分担参照) <b>2.登録事業者制度</b> 登録申請 書類審査 現地審査 資格認定等委員会 登録(2年更新) 5分野の区分 / 道が定める登録基準に基づき審査 (詳細は役割分担参照)	
	分野分類	<b>個人・事業者共通</b> 5分野 山岳(道内の山岳地域に案内し、自然解説や登山技術の指導を反復継続して行う者) ロープワークや高度な登攀技術が必要としない山岳地域 ハイマツ林などが生育する高山(低木林)帯またはそれを越える標高の山岳地域 / 自然(主に登山道や遊歩道を使用して、自然の案内及び解説を反復継続して行う者で、自然の解釈(インタープリテーション)に最も重点を置き、活動地域は「山岳地域」以外の地域) / カヌー(カヌーまたはカックを使用して、河川及び湖沼に案内し、操船技術指導や自然解説を反復継続して行う者) / ラフティング(ラフトを使用して、河川に案内することを反復継続して行う者) / トレイルライディング(馬を使用して自然の中へ案内することを反復継続して行う者)	
	役割分担	専門分野ごとに2~3段階設定 / 各分野ごとに受験資格を設定(年齢・経験等) マスター:高度な知識・技術を持ち、ガイドの指導的立場にある者(検討中) ガイド:単独で活動の指導を行うことができる知識・技術を持つ者 ジュニア:ガイドやマスターの監督のもと、ガイド業務を行う者	
	活用の制度	制度なし(登録の制度はあるが、活用の制度は特に認められない。)	
	活用の仕組	インターネットで検索 分野別の一覧にとどまる 登録(公表)内容 個人:氏名 / 所属名 / 連絡先(住所・TEL・FAX・E-mail) / 顔写真 事業者:事業者名 / ホームページ / 連絡先(住所・TEL) 活用の仕組 仕組みは特に認められない。	

調査先：ホームページ / 報告書 調査時期：2005年1月

表 - 14 阿波の達人調査票

区分	種別	細 別	備考
組織名	徳島県(交流推進局観光交流課)		
所在地	〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地		
連絡先	TEL : 088-621-2339 FAX : 088-621-2851	E-mail : kankoukouryuuka@pref.tokushima.lg.jp URL : http://ourtokushima.net/tatsujin/top.php	
制度の概要	趣旨	情報なし	
	定義	情報なし	
	組織体制	組織種別 地方自治体	
人材活用	登録規程	阿波の達人 詳細については情報なし	
	分野分類	自然の達人：ラフティング/カヌー/石積み/山歩き/島案内/ダイビング/大敷網/クルージング/船めぐり/一本乗り/乗馬/波/底びき網/地びき網 食の達人：たらいうどん/地元料理/山菜/そば打ち/海藻料理 伝統・伝説の達人：阿波和紙/藍染め/大谷焼き/大凧/伝説探訪 もてなしの達人：博物館案内/ドイツ館/観光ガイド/町並み案内/街角案内/寺町案内/美術ガイド/記念館ガイド/滝/名所案内/ウォーキング 技の達人：竹細工/カズラ/リース作り/パッチワーク/サーキット/炭焼き/布絵/草木染め	
	役割分担	分担なし	
	活用の制度	制度なし	
活用の仕組	インターネットで検索 分野別の一覧にとどまる 登録(公表)内容 氏名/所属/顔写真/達人からのコメント(活動等の紹介)/問合せ先/施設利用や体験の料金 活用の仕組 それぞれの問い合わせ先に任意に連絡		

調査先：ホームページ

調査時期：2005年1月

## (2) 登録と活用のあり方

先進事例での人材の情報管理やデータベース化の実態に基づき、人材の登録と活用に関する制度のあり方について次のとおり整理した。

### ・人材の登録

人材登録するまでには、人材を発掘し、ガイドとして育成後、知識や技術、能力を評価(審査)する必要がある。

人材の発掘においては、地域に精通した人材が必要であり、地域住民及び地域で活動する団体や企業に対して、エコツーリズムの周知を図るとともに、日常的な生活や職業により培われた能力が重要なことを意識付ける必要がある。

人材を育成するためには、目標となる基準が必要であり、プログラムに応じた特性や資質を明確にし、それぞれの担うべき役割と能力を設定する。設定した役割に応じた能力の適性を判断する評価基準を設け、人材の育成や資質向上の目標値とするとともに、登録に向けての審査基準に反映する。

人材の登録にあたっては、プログラムの企画や人材の選定に必要な情報を収集するとともに、人材情報の公開に対応したシステムを構築する。

人材の登録制度は、排他的な許可・免許制度ではなく、ガイドを目指す人や資質向上を目的とした自己研鑽の努力目標となるべきもので、また、ツアー参加者にとっても選択基準として機能を果たすべきのものである。

したがって、ツアーを運営する組織の「経営方針」「運営体制」「収支計画」等への適合と、求める要素や基準を明らかにしたうえで、登録の制度化を図るべきである。

### ・人材の活用

登録された人材情報は、プログラムの企画及び人材の選定や配置配員を行う場合の最も身近な情報源であり、変更が生じた場合には最新の情報に更新できる仕組みづくりが必要である。

プログラムの実施後には内容や運営方法など様々な視点から評価できる体制を整え、ガイドとして不足する知識や能力などを明らかにし、ガイドの資質向上のための改善対策を講じる必要がある。

人材の活用制度は、登録後において、プログラムの実践を通して能力が発揮できるとともに、改善すべき箇所について迅速に対応できるシステムが必要である。また、ガイドの知識や技術、能力を一定レベルに維持するとともに、資質向上を促す制度として機能する必要がある。

したがって、利用者に対しては、より分かりやすく情報を発信するとともに、質の高いサービスを実現するために、継続的な改善の仕組みを構築するべきである。

### 3. 求められる人材

エコツアーリズムを運営・推進するには、様々な能力をもつ人材が、各々の役割を果たす必要がある。その役割としては、ツアーの案内や解説をはじめ、プログラムの作成とマネジメント、エコツアーリズム資源の管理、及び参加者を環境保全のよき理解者へと誘導するなどがあげられる。

ここでは、それらのうち、中心的な役割を担う職種として、ガイド、トレーナー、コーディネーター、マネージャーの4つをあげ、それぞれの役割について以下に記す。

下灘エコツアーリズムにおいては、以下のことを踏まえたうえで、地域の実情に即した人材の発掘と育成を目指すこととした。

#### (1) 人材の存在価値と必要性

エコツアーリズムにおける人材の存在価値と必要性について次のとおり整理した。

##### ・ガイド

エコツアーリズムは、ツアー参加者が単なる観光（見ること）による漠然とした知識や経験を持ち帰るのではなく、その地域の自然や歴史・文化を見ることに加え、触れ、学び、感じることで、環境保全活動などにつなげることに一つの意義がある。そのためには、参加者の間に立ち、地域の良き代弁者となるツアーガイドが必要不可欠な存在である。言い換えれば、ガイドはツアーの商品的存在であることはもとより、地域の自然環境や文化の価値感を左右する極めて重要な役割を担うと言うことができる。このガイドは、自然と生きる地域の生活を体験させることにより、参加者に自然保全活動などへの参加意識を高めるよう努めることで、自然環境への意識がより深まるよう導くことも大きな役割の一つである。また、ガイドの存在は、参加者と地域の双方にとって次のような大きな効果を期待できる。

第一に、旅行者にとっては、年齢、経験、興味など参加者の特性にあったサービスを提供してくれる、解説によって気づかない点や知らないことを気づかせ、教えてくれ、短い滞在期間で多くの知見を得ることができ、ガイドなしの場合に比べ、計り知れない満足感を得ることができる、安心と安全を提供してくれる、訪問地域に親しみを持てる心を芽生えさしてくれる、再度この地を訪れたいと旅行者に感動を与えてくれる、地域住民との掛け橋になってくれる、などのことがあげられる。

第二に、地域にとっては、地域住民の思いを伝えることができる、地域資源の持続的利用ができるよう個々のエリアでの指導的役割を期待できる、地域の自然資源や歴史文化資産の保護について参加者に協力を得るための呼びかけができる、参加者を単なる旅行者から理解者、そして協力者へと変えることが期待できる、ガイドの雇用機会が生れるとともに住民に自信と活力を与える効用があり、地域の活性化に結びつけることができる、などのことがあげられる。

### ・トレ - ナ -

ツアーを構成するプログラムは、必要な知識や技術を兼ね備えたガイドにより実施され、その成功もガイドの実力により左右される。

ガイドが、プログラムの実践を通してその実力を十分発揮するためには、様々な講座の受講やカリキュラムを経て、必要な知識や技術を修得しなければならない。また、プログラムを実践することから不足する技能を認識し、その改善対策を講じるとともに、更なるレベルアップを図ることでプログラムの魅力向上につながり、集客拡大が期待できる。

トレーナーは、こうしたガイドに対して、必要な知識や技術の修得はもとより、ガイドにその魅力を伝えることが重要である。また、初心者のガイドにとっては、分からないことや困ったことを相談できる良き相談役としても大切な役割を担うものと言える。

### ・コ - ディネ - タ -

エコツアーは、プログラムを実施するガイドとそのプログラムの参加者、そしてツアーを支援する各団体や関係機関により成り立つものである。

エコツアーを成功させるためには、広範な知識に基づく魅力あるツアーの企画、集客に向けての広報活動、ガイドや関係機関との調整、参加者への連絡や交通、宿泊等の配慮など、ツアー運営のための様々な管理・調整が行われている。

コーディネーターは、農山漁村と都市、関係機関と地域住民、自然と人及びガイドと参加者など、それぞれの間に入り、多くの機関や人から意見を聞くとともに、公平な仲介や調整役として、エコツ - リズム事業での集客力や魅力等を左右する極めて重要な役割を担うものと言える。

### ・マネ - ジャ -

エコツ - リズム事業は、自然環境や歴史文化を対象とした体験や学習の機会を提供し、参加者に感動を与えると同時に、それが経済行為として成り立つことで、環境と経済の好循環をもたらし、地域の活性化につなげようとするものである。

エコツ - リズムは、「環境保全」「観光振興」「地域振興」が深い関わりをもちながら取り組む社会の仕組みづくりであり、それらの相乗効果をねらって推進される。エコツ - リズムを地域社会の仕組みとして定着させるためには、地域が主体となった運営体制を確立し、継続のための組織化と目的の明確化が必要である。

マネージャーは、上記の観点から、外部交渉を行いうる地脈や知脈・人脈を広く構築し、ニ - ズ等の広範な情報収集や広報活動及び事業のリスクマネジメントに至るまで、事業の全体を見通すという、極めて重要な役割を担うものと言える。

## (2) 人材の特性と資質

人材の存在価値と必要性を踏まえ、特性と資質について次のとおり整理した。

### ・ガイド

エコツアーのガイドには、参加者の安全管理等、一般ツアーのガイドの役割に加えて「自然、文化、歴史資源について科学的な意味を解説すること」と「地域の人々がその資源をどのように利用し、どのようなかわりをもって、今日に至っているかを解説すること」の二つの役割が求められる。

各エコツアーの直接の指導者的位置づけとなるガイドの役割を踏まえ、インタプリター（解説役ガイド）、インストラクター（指導役ガイド）、ファシリテーター（促進役ガイド）の3つに細分し、それぞれが担う役割について以下のように定義するものとした。

#### ( ) インタプリター（解説役ガイド）

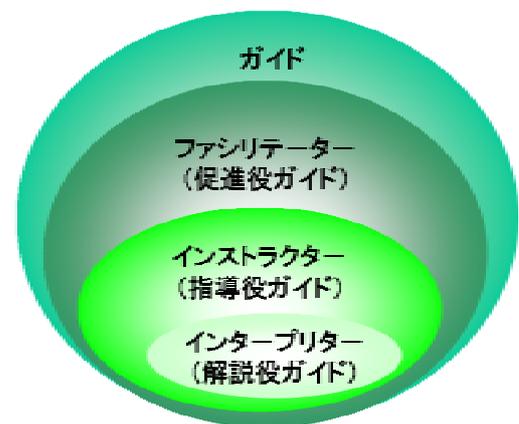
自然の解説にとどまらず、社会的な課題や自然、歴史や文化的遺産などのさまざまな事象について、現代人間の価値観中心ではなく、それぞれの立場で解説を行う役割を担う。

#### ( ) インストラクター（指導役ガイド）

全体の流れを理解し、そのうえで参加者のレベルなどを見極め、現況において適切な知識や技能を伝える役割を担う。

#### ( ) ファシリテーター（促進役ガイド）

参加者側の好機を捉えて適切な体験や発見を起こさせ、発達段階のステップアップを促す役割を担う。



### ・トレーナー

トレーナーは、ガイドの育成、指導を担当し、それぞれの役割に応じた育成や不足する知識のフォローアップ等、人材育成に関する講座の企画・運営・講師を担うこととした。

### ・コーディネーター

コーディネーターは、ツアープログラムの企画から実施を担当し、ガイドの役割分担や宿泊施設の案内、使用する施設の手配等、エコツアーの実質的な管理・調整を担うこととした。

### ・マネージャー

マネージャーは、事業全体を見通し、事業リスクのマネジメント、外部との交渉や庶務・財務等、エコツアー事業の継続と推進を担うこととした。

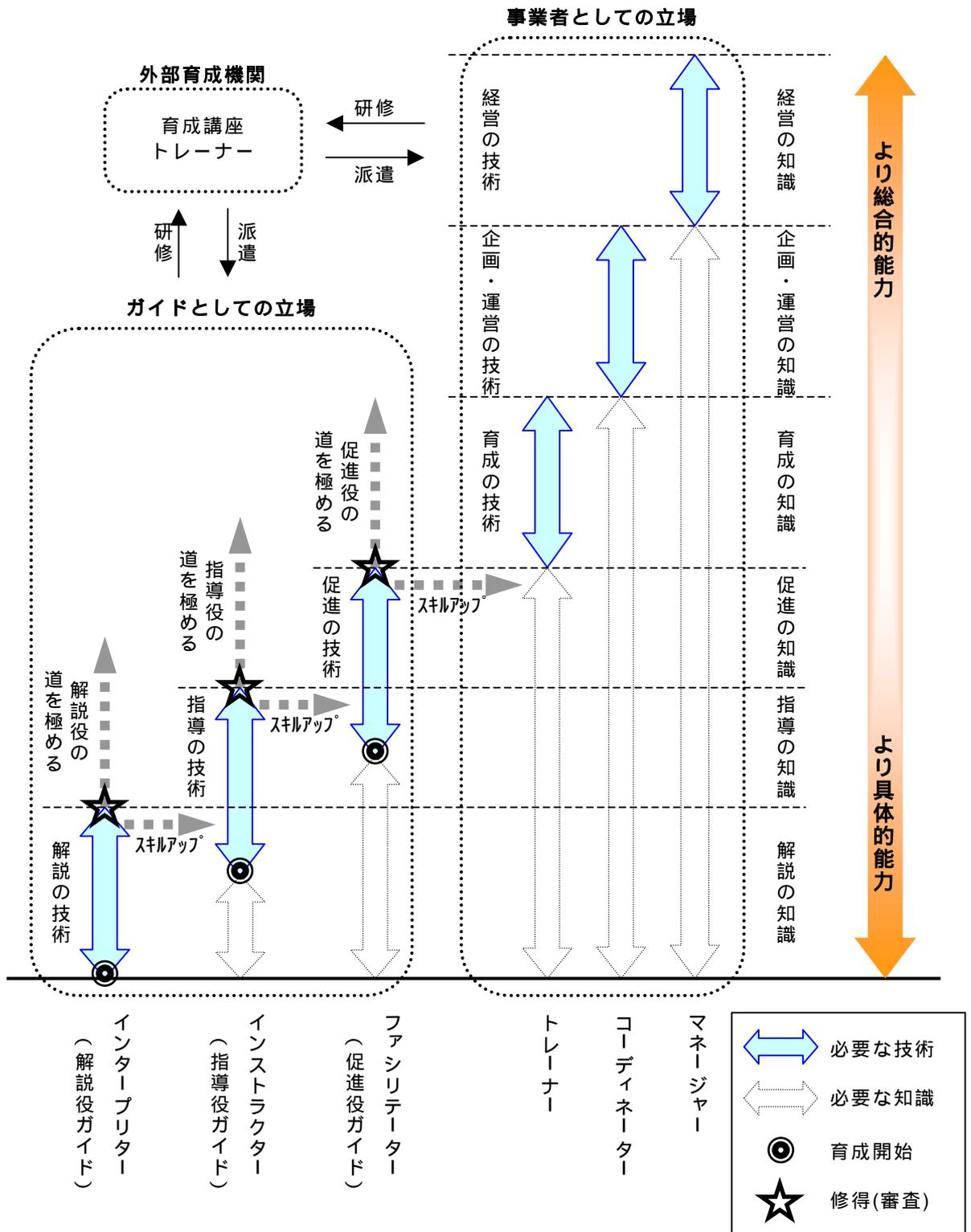


図 - 1 役割に必要な技術と知識

### (3) 人材の役割と能力

エコツアーなどの体験学習を実施する人材の役割と能力には、環境教育の視点が求められる。「環境教育がわかる事典：(財)日本生態系協会」から引用すると、「それぞれの立場に立って解説する通訳者」「知識や技能を伝える指導者」「具体的に行動を起こさせる促進者」の3つの役割と、「促す方向を見誤らないための認識」「環境問題や学習者に対する態度」「学習者がやる気を起こさせる技能」の3つの能力が示されている。

下灘エコツアーリズムにおいては、この3つの役割と能力を踏まえ、上位計画で設定されたツアーの基本的な考え方にに基づき、ガイドの役割と能力の基準を検討し、表 - 15 に整理した。

表 - 15 ガイドの役割と能力

役割	能力	認 識 促す方向を見誤らないための見識	態 度 環境問題や参加者に対する姿勢	技 能 参加者がやる気を起こす指導技術
			1.自然生態系を通して捉える能力 2.現代社会の構造的な問題の把握 3.環境教育についての正しい認識	1.環境問題に対する指導者の姿勢 2.参加者に対する指導者の姿勢
インタープリター (解説役ガイド)	知ろう 自然と歴史 自然と環境問題に関心を持ち知識を深め、人間の責任や使命を理解させる。	地域の自然や歴史について解説し、その成り立ちを正しく伝え、 <u>関心</u> を高めさせることを認識する。	環境問題を正しく理解し、社会的な倫理観を備え、 <u>参加者の理解度に適した態度</u> で対応する。	単なる解説に留まらず、 <u>関心を高め、知識を深める解説手法</u> を工夫し、研究と改善を継続する。
インストラクター (指導役ガイド)	学ぼう 自然と暮らし 自然に接する態度や保全意欲の向上と、問題を解決する技能を修得させる。	地域の自然と生活の関わりを理解し、その土地固有の <u>生活の知恵や技の重要性</u> を認識する。	地域の生活習慣や生業を尊重し、これからのあるべき方向を <u>自然との共生の視点</u> で的確に対応する。	単なる技術指導に留まらず、その <u>意義や必要性を伝える手法</u> を工夫し、研究と改善を継続する。
ファシリテーター (促進役ガイド)	守ろう 自然と文化 自然環境に対して総合的に評価する能力を発揮させ、保全活動を促進する。	地域の自然と文化が <u>深く関わっていることを理解し、それらを持続させることの重要性</u> を認識する。	活動に参加することの意義を理解し、参加者自身が気づき、 <u>価値観の成長を参加者自らが促せるよう</u> 対応する。	活動の好機を捉えて、適切な体験や <u>発見を起こさせ、発展させる手法</u> を工夫し、研究と改善を継続する。

## 【ガイドの役割と能力についての具体的な例（漁業者を対象とした場合）】

### インタープリター（解説役ガイド）

認識：例えば、地域の海にサンゴがいること、そして、それがどのように変わってきているかや、リアス式海岸がどのようにしてできたかなどについて解説する。

態度：例えば、サンゴが育つ海に自分達の行動が与える影響を伝えたり、年齢、経験、興味など参加者の特性に応じた適切な態度で解説できるようにする。

技能：例えば、参加者に自分たちが普段行っている、生業を順序立てて、危険のないように解説することができる。そして、それを自己評価してより良く改善できること。

### インストラクター（指導役ガイド）

認識：例えば、地域の海に適合した昔ながらの伝統漁法と近代漁法との違いや、それによる暮らしの変化と経験を交え、解説し、指導する。

態度：例えば、サンゴが育つ海で、昔から伝えられている食文化や地域の自然に支えられてきた暮らしを経験的に伝え、今後のあり方をともに考えられるように適切な態度で指導する。

技能：例えば、参加者に自分たちが普段行っていることを、限られた時間内、適切な場所で、危険のないように学んでもらえるように指導できること。そして、それを自己評価してより良く改善できること。

### ファシリテーター（促進役ガイド）

認識：例えば、地域にとっての海の大切さを伝え、それを守るため古くから地元の人達がどういった工夫を行って来たか、防風林や魚付林の存在やそれらが作り出す効果や風景、そこを生息・生育地とする生物との関わりなどを気づかせ、保全する意義の理解を促す。

態度：例えば、サンゴの移植活動や調査活動に参加し、海の生態とサンゴの関わりに気付かせ、再生活動に自らが参加する意欲を促す。

技能：例えば、参加者に自分たちが普段行っていることを、限られた時間内、適切な場所、さらに、参加者の特性に応じて、学んでもらえるよう指導しつつ、魚付林の荒廃や川の汚染が海を荒廃させていることなど、海と川と山の連続性などの観点を語ることで、参加者に保全活動への参加を促せるように展開できること。そして、それを自己評価してより良く改善できること。

【ガイドの役割と能力の参考基準例】

自然体験活動指導者（NPO法人自然体験活動推進協議会）

自然体験活動リーダー(18歳以上)・・・本業務のインタープリター(解説役ガイド)の参考日帰りで10人程度の少人数を身近な自然に「案内」できる

基準：共通カリキュラム(21時間)

自然体験活動インストラクター(20歳以上)・・・本業務のインストラクター(指導役ガイド)の参考身近な自然に少人数を案内する自然体験活動の「指導」ができる

基準：共通カリキュラム(23時間)ノペーパーテスト

リーダーとして30日以上の経験

上記認定基準は参考とし、下灘地域に関する知識修得について追加するなど再考が必要である。

ファシリテーター(促進役ガイド)については、参考となる既存の認定制度はないため、本業務では、自然体験活動インストラクターの知識に加え、自然保全等の活動を率先して行動できる人材を育てるための知識を有する人材とする。

表 - 16 自然体験活動指導者養成共通カリキュラム(参考例)

「環境教育・環境学習推進のための自然体験活動指導者育成システムの構築調査報告書：環境省自然環境局」

指導者養成共通カリキュラム例

共通カリキュラム	内容(目標)など			
	自然体験活動リーダー	自然体験活動インストラクター	自然体験活動コーディネーター	
自然体験活動の理由	職業と自然教育 職業の学習と自然体験との関係性 リーダーの役割 自然体験活動は楽しく教えられる活動	職業と自然教育 職業の学習と自然体験との関係性 リーダー-教員としての経験の自己評価 インストラクターの役割	職業と自然教育 職業の学習と自然体験との関係性 リーダーの役割 自然体験活動を通して教えられる活動 コーディネーターに求められる役割と役割	120
自然の理解	自然の科学的な仕組み 生態系の働き			
対象となる自然を知ること	自然環境に起因した脅威の取り方 参加者に合わせた説明 体験活動を提供する役割としての心構え	自然環境に起因した脅威の取り方 インストラクターとしての心構え、自己評価 さまざまな対象者に対応した指導		200
自然と人、歴史、文化のつながり	自然と暮らしのつながり(自然と人間の関係性) 人の生き方、暮らしと自然との関係 自然と関連して生きたりする文化			100
安全対策について	自然体験活動での安全対策、安全管理 危険予知のフローチャート フェーストゥフェイスの基本的方法 心構えを伝える コーチとしての責任 役割	自然体験活動での安全対策、安全管理 教員としての基本的方法 フェーストゥフェイスの基本的方法 心構えを伝える コーチとしての責任 役割	安全管理の観点からの事業計画やチェック・リストへの 事業者の様々な責任 実践を通して人と動物の関わり方 危険材料の取扱い、取置	240
自然体験活動の指導法	自然体験活動の基本的な指導法	自然体験活動の基本的な指導法 自然体験活動と指導するための効果的な指導法	自然体験活動の事業を企画することから 事業実施に必要な指導者の役割 コーディネーターの役割、自然の保護	200
自然体験活動の基礎知識	自然体験活動の企画には自然の保護が重要 各種の自然体験活動の目的の認識 フェーストゥフェイス	自然体験活動と指導するための効果的な指導法	自然体験活動の事業を企画することから コーディネーターの役割と役割	200
プログラムのづくりの基礎	プログラムづくりの基礎知識	プログラムの考え 実践の計画		200
評価			評価・結果に合わせた評価の方法 評価内容の分析・活用 求められる指導者としての役割	120
事業レポート			指導者育成と評価、自然の保護 自然体験活動全体の認識	100
試験		インストラクターに必要な理論・目的の理解 インストラクターとしての実践的知識	自然体験活動コーディネーターの役割を自分の言葉で説明 安全対策に対する理解と実践	100

凡例  
 A: 知る・見ると  
 B: 体験する・参加する  
 C: 理解する・実践する

### ジュニアリーダー育成カリキュラムへの適用例

CONE リーダー育成カリキュラムの項目	ジュニアリーダーとしての到達目標
1. 自然体験活動の理念	自然体験憲章を理解している ジュニアリーダーの役割を理解している
2. 自然の理解	自然のすばらしさを感じることができる 自然を大切にすゝる気持ちを持っている
3. 対象となる参加者を知る	参加者を理解することの大切さを知っている 参加者の視点から活動を見られるようになる
4. 自然と人、社会、文化のかかわり	人の暮らしと自然が結びついていることを認識している 資源を大切にすゝる日常生活を志している
5. 安全対策について	活動に際し、危険の予知と安全の確保を常に配慮している 基本的な救急法を行うことができる
6. 自然体験活動の指導法	活動において参加者の主体性を尊重している 活動において、振り返りの重要性を理解している
7. 自然体験活動の基礎技術	活動の基盤となる技術を習得している 他のスタッフと協力して活動することができる フィールド保全に配慮した活動ができる
8. プログラムの作り方	プログラムづくりにおいて配慮しなければならない点をおさえている

### インストラクター育成カリキュラムへの適用例

CONEインストラクター育成カリキュラムの項目 (番号はCONEリーダーを適用)	インストラクターとしての到達目標
1. 自然体験活動の理念	認定後の自分の実践に対し適切な自己評価ができる インストラクターとしての社会的責任と機能を果たせる 理念を常に意識して、指導の plan do see のサイクルをまわすことができる
3. 対象となる参加者を知る	対象者の特徴を理解し、それに対応した指導ができる インストラクターとしての心構えを備えている 自分を客観的に理解できている
5. 安全対策について	自然体験活動での安全対策、安全管理ができる 具体的な応急処置の方法、レスキュー技術を習得している 保険の知識を持っている。 過去の事故を教訓にして、今後事故を起こさないよう対応することができる
6. 自然体験活動の指導法	体験学習の理論にそつて指導の流れを設計できる 総合的指導力がある
7. 自然体験活動の基礎技術	その状況に応じた効果的な技術を用いることができる。
8. プログラムの作り方	プログラム作成の基本的な考え方を応用し、実際の企画がつくれる

## ジュニアリーダー育成プログラムの作成例

- カリキュラムからプログラムへの展開 (数字は時間単位分を、○、◎は時間規定はないが重要度を示す)

リーダー育成カリキュラムの項目		アクティビティ							合計(分)
		体験 プロジェクトアドベンチャー	演習 自分たちにとって自然って何	実習 スキルマーケット	体験 真冬の野外炊き飯	演習 自然体験活動の計画づくり	実習 止血法、心肺蘇生法、けが人の運搬 救急法	演習 全体の振り返り	
1.自然体験活動の理念	自然体験意義を理解している		○			30		30	
	ジュニアリーダーの役割を理解している	○							60
2.自然の理解	自然のすばらしさを感じることができる			○	60				
	自然を大切にする気持ちを持っている		60		○	60			180
3.対象となる参加者を知る	参加者を理解することの大切さを知っている	40	40						
	参加者の視点から活動を見られるようになる	○				40			120
4.自然と人、社会、文化のかかわり	人の暮らしと自然が結びついていることを認識している				60	60			
	自然を大切にする日常生活を志している		60		○				180
5.安全対策について	活動に際し、危険の予知と安全の確保を常に配慮している					60			
	基本的な救急法を行なうことができる						180		240
6.自然体験活動の指導法	活動において参加者の主体性を尊重している	60				60			
	活動において、振り返りの重要性を理解している	60						60	240
7.自然体験活動の基礎技術	活動の基礎となる技術を習得している			120	○		60		
	他のスタッフと協力して活動することができる	◎			○				180
	フィールド保全に配慮した活動ができる				○	◎			
8.プログラムの作り方	プログラムづくりにおいて配慮しなければならない点を満たしている					60			60
合計(分)		160	160	120	120	370	240	90	1260

## インストラクター育成プログラムの作成例

● カリキュラムからプログラムへの展開（数字は時間単位分を示す）

リーダー育成カリキュラムの項目	到達目標	アクティビティー								合計 分	
		演習	体験	実習	実習	実習	演習	演習	演習		
1. 自然体験活動の理念	認定後の自分の実践に対し適切な自己評価ができる	40				60					
	インストラクターとしての社会的責任と機能を果たせる	40									
	理念を常に意識して、指導の plan do see のサイクルをまわすことができる	40									180
3. 対象となる参加者を知る	対象者の特徴を理解し、それに対応した指導ができる		30								
	インストラクターとしての心構えを備えている				60						
	自分を客観的に理解できている					60			150	300	
5. 安全対策について	自然体験活動での安全対策、安全管理ができる					60		60			
	具体的な応急処置の方法、レスキュー技術を習得している							60			
	保険の知識を持っている。							60			
	過去の事故を教訓にして、今後事故を起こさないよう対応することができる							60			300
6. 自然体験活動の指導法	体験学習の理論にそって指導の流れを設計できる		30	30	10	30					
	総合的指導力がある			60	10	30					200
7. 自然体験活動の基礎技術	その状況に応じた効果的な技術を用いることができる。		30	60	10						100
8. プログラムの作り方	プログラム作成の基本的な考え方を応用し、実際の企画がつくれる							120			240
合計(分)		120	90	270	90	240	120	240	150	1320	

## 4. 人材情報の管理

### (1) 人材情報管理

下灘地域においてエコツーリズムを推進するためには、地域内の自然や関連する施設及び人材（地域住民）等の資源情報や、これら資源を活かしたツアー情報のほか、エコツーリズムの概要など、様々な情報を収集し発信する必要がある。

収集した情報は、単発的な発信で終わることなく、変化に対応した更新が必要であり、また、単に資源情報を発信するのではなく、資源に関連する情報も合わせて発信するなど工夫が必要である。

図 - 2 インターネットによる情報管理のイメージは、情報管理の一つの手法であるインターネットを利用した場合のイメージを整理したものである。この中で、本業務において示す情報管理の検討は、人材に関する内容に特定した「ガイドの情報収集と情報発信」を対象とする。

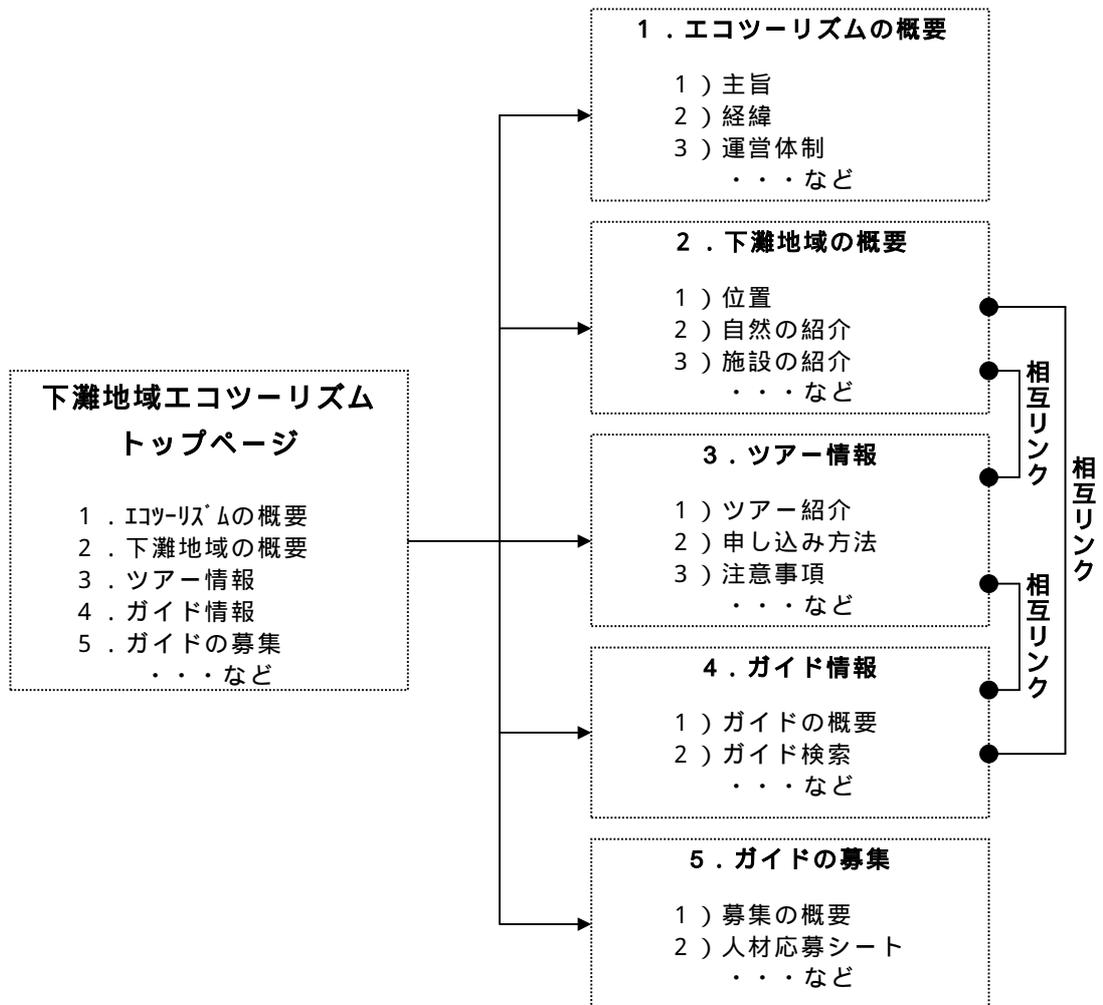


図 - 2 インターネットによる情報管理のイメージ

## (2) 人材情報の収集と発信

人材に関する情報について、収集と発信の方法や留意点について整理した。

### ・情報収集

エコツーリズムを推進し、様々なツアーを行うためには、地域住民を中心にプログラムのガイドとして参加する意欲ある人材情報を収集することが求められる。

収集（募集）にあたっては、エコツーリズム推進の広範な周知を図り、その主旨を十分理解してもらう必要がある。

### ( ) 収集（募集）方法

収集方法には、広範な情報の発信が可能なインターネットによる募集が有効と考えられるが、地域住民の各戸にネット環境の普及が十分でないことや、利用できない住民もあり、他の方法と併用する必要がある。

インターネットによる方法以外には、募集案内を配布する方法があり、既に何らかの活動をしている住民へ直接募集したり、また、地域で活動するNPO法人をはじめとする環境保全活動団体及び関係する企業や団体等への配布や関係施設に募集コーナーを設置することなども求められる。

### ( ) 情報収集項目の設定

収集する項目は、情報の活用目的に応じて設定する。人材の募集段階と実際にプログラムを運用するための登録段階に応じた項目について次のとおり設定した。

#### 募集項目の検討

募集に際しては、応募者の名前と連絡先を聞くだけでなく、収集したい情報の項目を設定し、応募のための共通のフォーマットを作成する。

応募から登録までは、何らかの審査や育成が必要となるため、その第一段階の情報収集と捉え、エコツーリズムに対するアンケート的な項目とし、審査、育成のための基礎資料とする。

#### 【募集項目】

氏名、性別、年代、連絡先（ここでの連絡先は、プログラムの申込みなどの連絡先ではなく、事業の説明や審査、登録に際して必要となる事務連絡のための連絡先）、活動に関する所属団体、活動場所（主に活動している場所について具体名で記入・複数可）、主な活動内容（過去の実績）、今後やってみたい活動等、活動に関係する保有資格等、エコツーリズムに対する考え、自己PRや活動に対する想い等

#### 登録項目の検討

登録に際しては、募集と同様に、収集したい情報の項目を設定し、登録のための共通のフォーマットを作成する。

収集した情報は、プログラム内容の検討や、エコツアーを企画するための重要な基礎資料となる。

また、同時にガイドからツアー参加者へのメッセージや活動及び地元に対す

る想いなども収集し、自己PRを兼ねたガイドの紹介資料とする。

**【登録項目】**

氏名、ニックネーム、性別、年代、居住地、顔写真、連絡先（ここでの連絡先は、体験内容の問い合わせや申込みをガイドに直接するための連絡先）、登録区分(役割)、活動場所、専門分野、活動内容(過去の実績)、保有資格、得意なこと、参加者へのメッセージ(自己PRや活動に対する想い等)

**・情報発信**

収集した情報は、人材管理に活用するとともに、ツアー参加の対象者だけでなく、広範な情報発信により、顧客拡大につながり、ツアー選択の情報源としても有効である。

ツアー参加者に対して、事前にツアー日程などの詳細情報とともにガイドの情報を発信する。ツアーの申込みで参加者の情報を得ると同様に、ガイドの情報を参加者に提供することで、事前にお互いを知ることができる。参加者が事前にガイドの情報を得ることは、初対面でもコミュニケーションをスムーズに図るために有効であり、ガイドと参加者とが早い段階で情報を共有することはツアーの成功にもつながる。

情報発信にあたっては、個人情報扱うため、慎重に対応すべきであり、募集の段階で集めた情報は全てを発信するものではなく、内部資料として厳重に管理する必要がある。また、登録者の情報は、ガイドの紹介用として利用するが、インターネットなどを利用した不特定多数の人への公開においては、登録者に対し公開すべき内容について事前に承認を得る必要がある。

( ) 発信方法

発信方法には、募集と同じく広範に情報を発信できるインターネットによる発信を主に、他の方法と併用する。

インターネットによる方法以外には、ツアー予定やガイドを紹介した不定期に発行するパンフレットのほか、自然や人材など様々な地域情報を紹介した定期的に発行する情報誌等による情報発信があげられる。

また、関係する地元団体などとの情報交換により、人材に限らず様々な情報のネットワークを構築し、情報の共有化を図ることで、相互に連携、支援できる体制づくりが求められる。

( ) 情報発信項目の設定

発信する項目は、個人情報扱うことから、登録した項目のうちガイドの情報として発信すべき必須事項と各ガイドが任意で発信できる項目を設定した。

**【必須項目】**

氏名、ニックネーム、活動場所、活動内容、ツアー予定、過去の実績、保有資格、得意なこと、参加者へのメッセージ（自己PRや活動に対する想い等）

#### 【任意項目】

性別、年代、居住地、顔写真、連絡先（ここでの連絡先は、体験内容の問い合わせや申し込みをガイドに直接するための連絡先）

### （３）人材情報管理システム

人材の管理システムには、インターネットによるガイドの募集(収集)と検索(発信)の情報管理と、審査、育成、登録(更新)の人材管理が必要である。

これら情報管理と人材管理のシステムは、相互に連携し、更新する必要がある。

本業務においては、人材管理システムを整理したうえで、インターネットによる情報収集と発信の概略モデルを示すこととした。

#### ・人材管理システム

ガイドとして登録できる人材は、ガイドの役割や責任のほか、地域に関する知識、自然への配慮、関連法規、リスクマネジメント等の基礎的知識が求められる。また、登録後においても、各プログラムの指導者として活動を継続しながら、ガイドとしての認識・態度・技能の維持、向上に努めるとともに、顧客拡大やリピーター確保のためのプログラム内容の改善や拡充が求められる。

こういったガイドの資質を管理し、ツアー及びプログラム内容に反映するためには、プログラムを実施するガイドだけではなく、コーディネーターやマネージャーによる評価、また、参加者からの感想や意見を踏まえた、総合的に評価・改善できる人材管理システムを構築する必要がある。

図 - 3 (38 頁)に人材管理システムのイメージを示し、次に計画、実施、評価、改善の各段階における管理システムについて検討した。

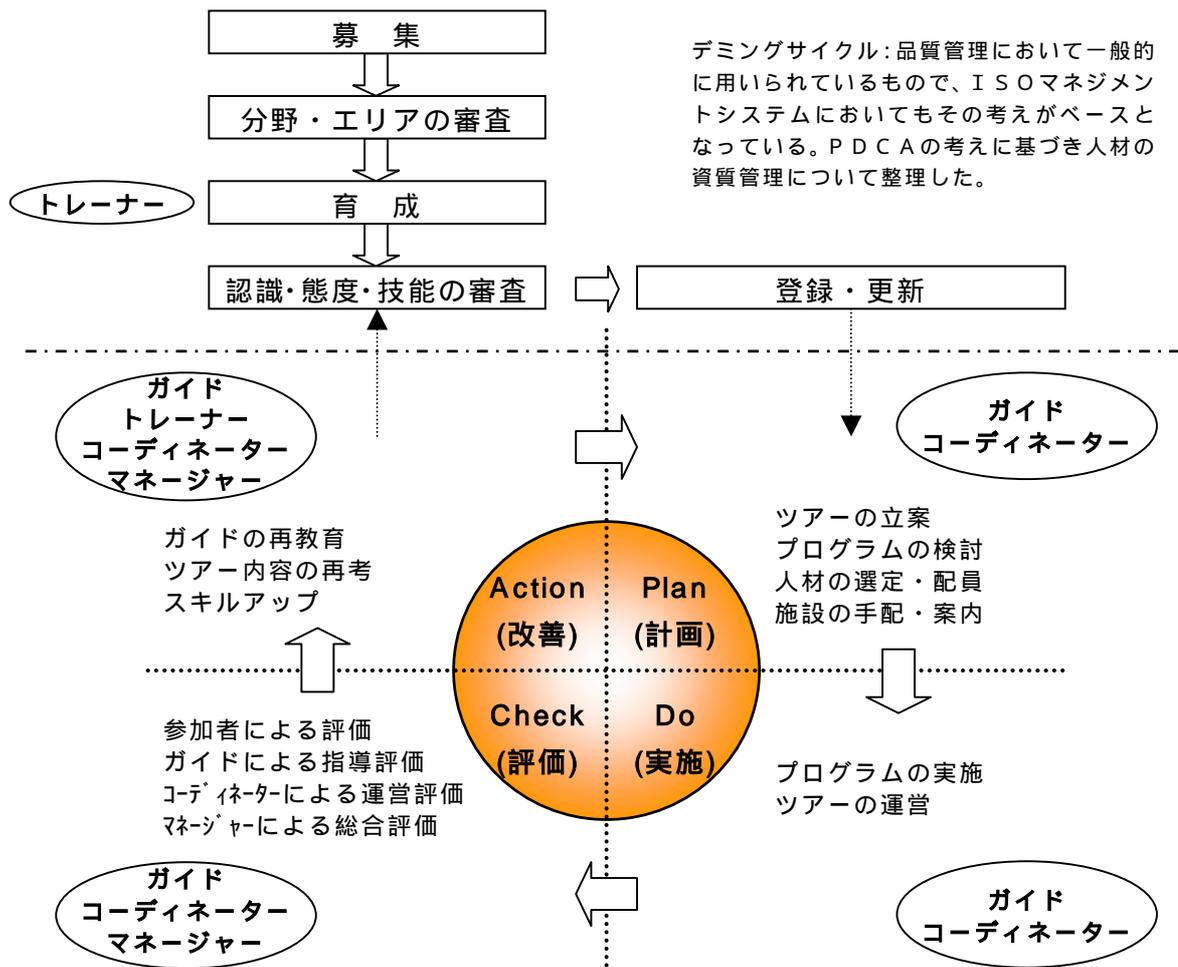


図 - 3 人材管理システムのイメージ

( ) ツアーの計画 ( Plan )

コーディネーターは、登録された人材情報をもとに、ツアーの立案とプログラムを検討し、指導するガイドを配員する。また、使用する施設や宿泊施設などの手配、関係する施設や団体等への連絡、参加者への案内等を行う。

ガイドは、プログラムの素案を受け、改善案の提案や具体的なプログラムを検討し、コーディネーターと決定する。

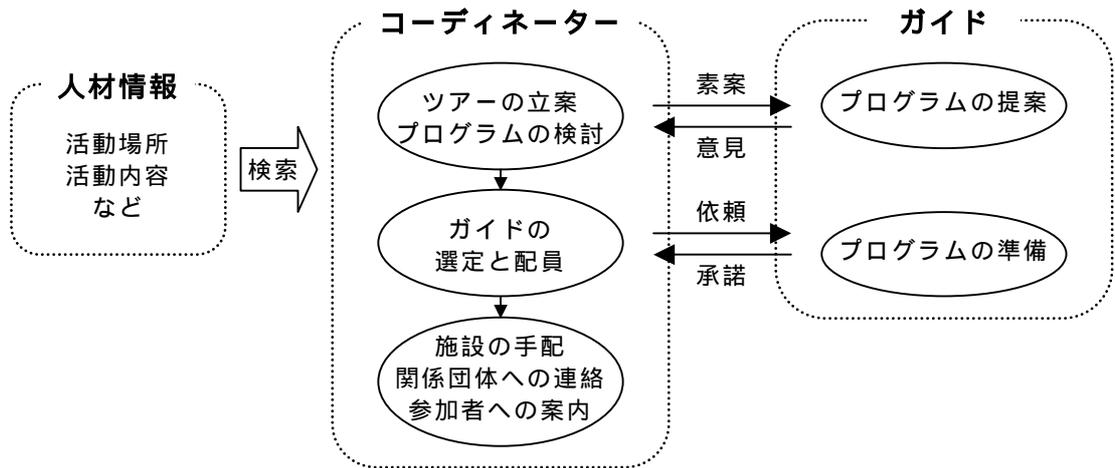


図 - 4 計画の流れ

( ) ツアーの実施 ( Do )

コーディネーターは、ツアーをスムーズに運営するため、プログラムの段階に応じて調整する。

ガイドは、担当するプログラムを遅延なく安全に実施するとともに、次のプログラムに何らかの影響が生じる場合は、コーディネーターと調整する。

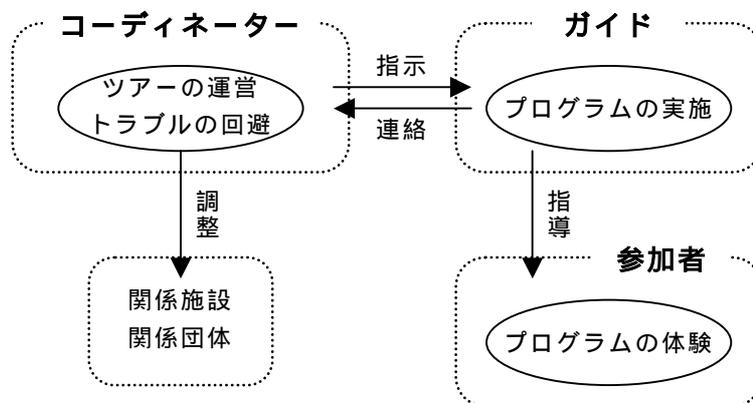


図 - 5 実施の流れ

( ) ツアーの評価 ( Check )

ガイドは、実施したプログラムを振り返り、プログラムの内容や指導方法について自己評価を行う。

参加者に対しては、ツアー及びプログラムの内容について、満足度のアンケートやホームページへの感想の書き込みを依頼し、参加者の視点から評価してもらう。

コーディネーターは、ツアー全体を振り返り、ツアーの内容や運営方法について自己評価を行う。

マネージャーは、参加者の意見や感想を含め、コーディネーターやガイドとともに、ツアーの企画、運営、実施までの総合的な評価を行う。

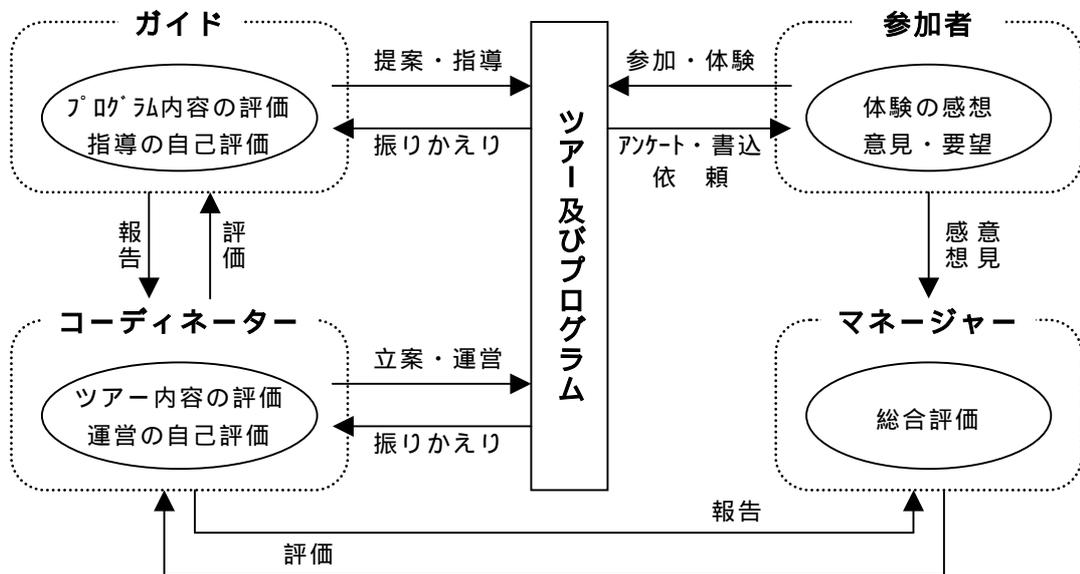


図 - 6 評価の流れ

( ) ツアーの改善 ( Action )

マネージャーは、総合評価の結果から改善すべき内容を検討し、コーディネーターに指示する。

コーディネーターは、指示を受けた内容に応じて、改善対策を立て、企画内容や運営方法を改善し、その内容をトレーナー、ガイドに対して指示する。

トレーナーは、不十分な箇所についてガイドを指導するとともに、スキルアップを目指した上位講座を開催する。

ガイドは、不足する知識の補講を受けるとともに、更なるスキルアップを積極的に目指し、上位講座を受講する。

それぞれの役割に対して、能力や技術を維持するとともに、資質向上を促すためにも、2～3年の登録更新を義務付けるなど制度化が必要である。

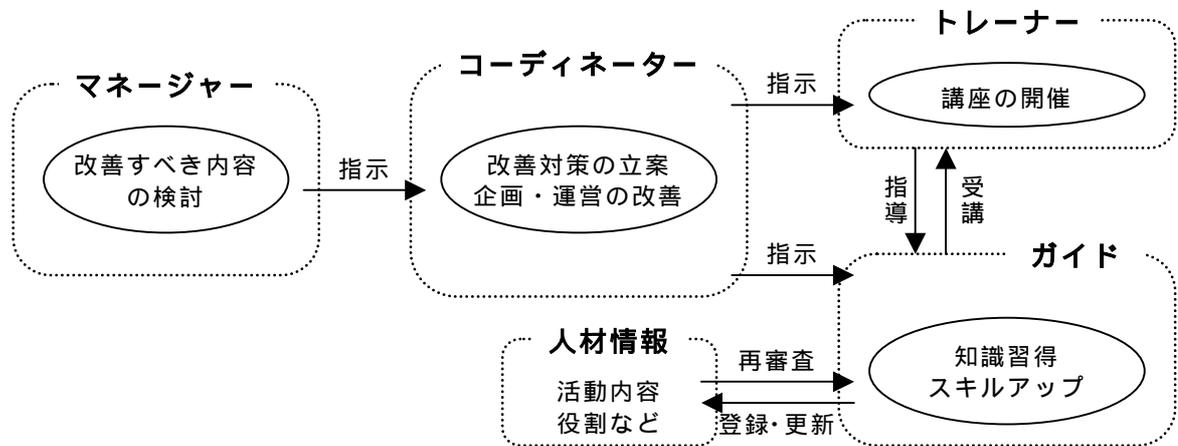


図 - 7 改善の流れ

・ 情報管理システム

情報管理システムは、前項で整理した人材管理システムを把握したうえで、必要な人材を収集（募集）し、整理された情報を広範に発信（検索）するシステムを構築する。

ここでは、インターネットを利用した情報収集と発信のシステムについて、その概念を図 - 8 (42頁)に示した。

尚、検討については、図中の□で囲んだ事項について行った。

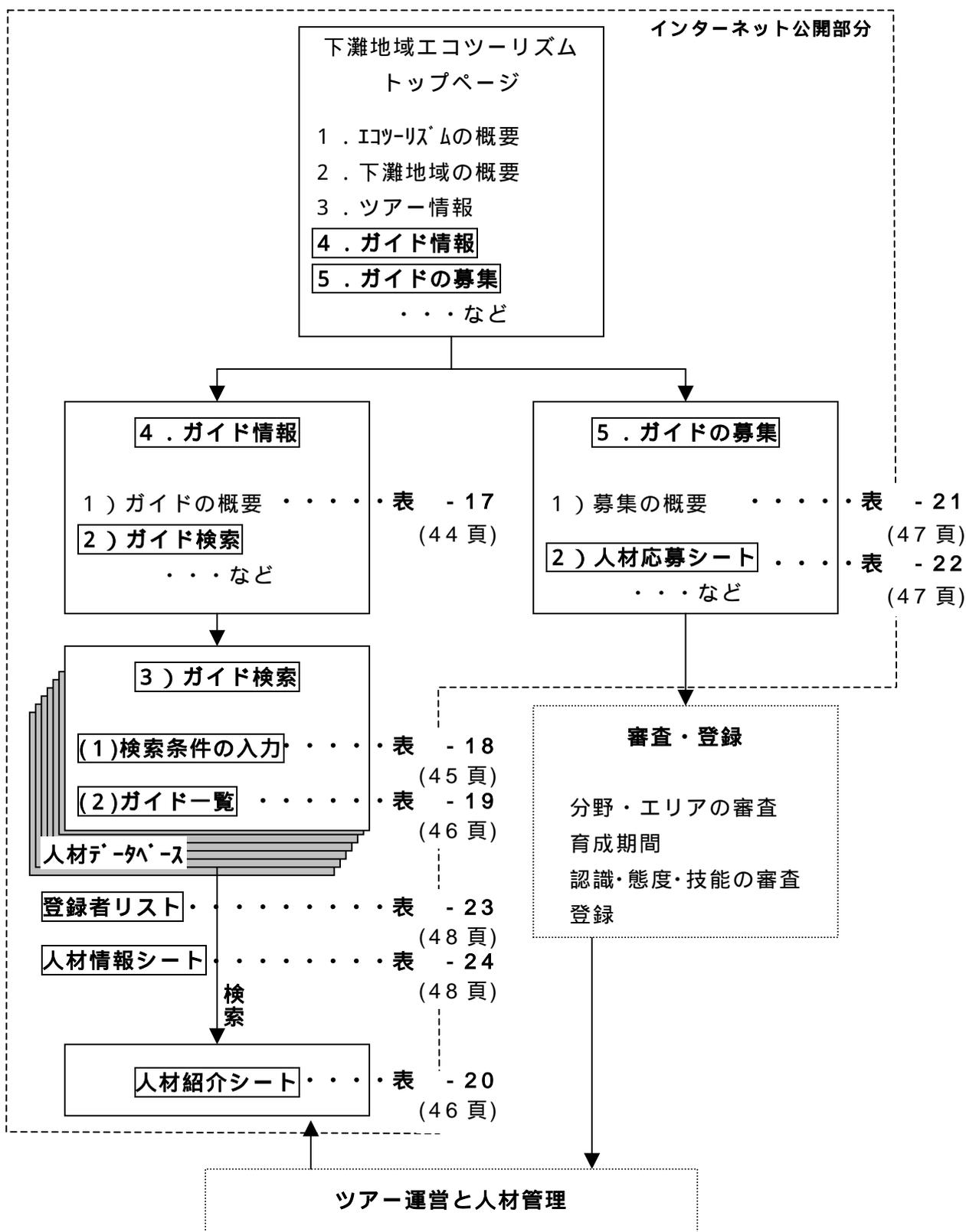


図 - 8 インターネットによる情報収集と発信のモデル

( ) 検索条件の入力シート

検索条件の入力シートは、複数の条件を入力し、適合するガイドを検索するシートである。検索の条件は、「人材の属性(氏名・性別・年代・居住地)」「体験したい場所(エリア、活動場所)」「体験内容(自然に触れる、自然環境を守る、ふるさとの歴史、ふるさとの生活、ふるさとの文化、その他)」の3つに分類し、それぞれキーワードを選択するものとした。

体験したい場所や体験内容のキーワードについては、登録されたガイド情報に基づき設定する。

表 - 18(45頁)に検索条件の入力シートのフォーマットを示す。

( ) ガイド一覧

ガイド一覧は、検索することなく、ガイドの氏名、連絡先、体験内容、ツアー予定、ツアー実績を一覧で確認できるものである。ガイドを務めるツアー予定や過去のツアー実績の情報も合わせて発信することで、ツアー及びガイドの選定材料として活用できる。

また、一覧表示をカテゴリー別(体験内容や場所別など)の並べ替えに対応するなど、探している情報を見つけやすくする工夫が必要である。

表 - 19(46頁)にガイド一覧のフォーマットを示す。

( ) 人材紹介シート

人材紹介シートは、ガイド一人ひとりの情報を発信するシートである。紹介する内容は、情報発信項目の検討で設定した、氏名、ニックネーム、性別、年代、居住地、顔写真、連絡先、活動場所、ツアー予定、過去の実績、保有資格、得意なこと、参加者へのメッセージ等とする。

ガイド一覧と同様にツアー情報とリンクさせる。

表 - 20(46頁)に人材紹介シートのフォーマットを示す。

( ) 人材応募シート

人材応募シートは、ガイドに応募するための申込みシートである。書き込む内容は、募集項目の検討で設定した、氏名、性別、年代、連絡先、活動に関係する所属団体、活動場所、主な活動内容、今後やってみたい活動、保有資格、エコツーリズムに対する考え、自己PRや活動に対する思い等とする。

表 - 22(47頁)に人材応募シートのフォーマットを示す。

( ) 登録者リスト及び人材情報シート

人材情報シートは、ガイドとして登録する際、必要な情報を収集し、管理するシートである。収集する情報は、登録項目の検討で設定した、氏名、ニックネーム、性別、年代、居住地、顔写真、連絡先、登録区分、活動場所、専門分野、活動内容、保有資格、得意なこと、参加者へのメッセージ等とする。

また、登録者リストは、人材情報シートの概要を一覧表示したものである。

これらは、管理者が内部資料として管理するもので、ガイド検索、ガイド一覧、人材紹介シートの情報源として活用する。

表 - 23(48頁)に登録者リスト、表 - 24(48頁)に人材情報シートのフォーマットを示す。

表 - 17 ガイドの概要

ガイドとは？			
<p><b>インタ - プリタ - (解説役ガイド)</b>                      自然の解説にとどまらず、社会的な課題や自然、歴史や文化的遺産などのさまざまな事象について、現代人間の価値観中心ではなく、それぞれの立場で解説を行う役割を担う。</p> <p><b>インストラクタ - (指導役ガイド)</b>                      全体の流れを理解し、そのうえで参加者のレベルなどを見極め、現況において適切な知識や技能を伝える役割を担う。</p> <p><b>ファシリテーター - (促進役ガイド)</b>                      参加者側の好機を捉えて適切な体験や発見を起こさせ、発達段階のステップアップを促す役割を担う。</p>			
ガイドの役割と能力			
能力 役割	認 識 促す方向を見誤らない ための見識	態 度 環境問題や参加者に 対する姿勢	技 能 参加者がやる気を 起こす指導技術
知ろう インタープリター (解説役ガイド) 自然と歴史	自然や歴史について解説し、 <u>関心を高めさせる</u> 。	学習者の <u>理解度に適した態度</u> で対応する。	関心を高め、知識を深める <u>解説手法</u> を工夫する。
学ぼう インストラクター (指導役ガイド) 自然と暮らし	自然と生活を理解し、 <u>生活の知恵や技</u> を伝える。	習慣や生業を尊重し、自然との <u>共生の視点</u> で対応する。	技能の意義や必要性を <u>伝える手法</u> を工夫する。
守ろう ファシリテーター (促進役ガイド) 自然と文化	自然と文化を <u>持続させること</u> を重視する。	価値観の成長を参加者 <u>自らが促せる</u> ようにする。	体験や発見を起こさせ、 <u>発展させる手法</u> を工夫する。

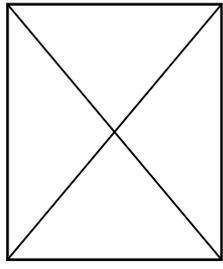


表 - 19 ガイド一覧

氏名	連絡先( )	体験内容	ツアー予定	ツアー実績
人材紹介シート とリンク (表 -20 参照)		キーワード	ガイドを務める ツアー情報とリ ンク	ガイドを務めた 過去のツアー情 報とリンク

ここでは、個々の体験プログラムについての問い合わせや申込みをガイドが参加者から直接受けるための連絡先を記入する。

表 - 20 人材紹介シート

氏名(フリガナ)		顔写真 
ニックネーム		
性別		
年代		
居住地		
連絡先	所属団体	
	住所	
	T E L	
	F A X	
	e-mail	
	URL	
活動場所		
ツアー予定	ガイドを務めるツアー情報とリンク	
過去の実績	個人の実績と提供ツアーの実績など ガイドを務めた過去のツアー情報とリンク	
保有資格		
得意なこと	活動に直接関係ないことでも良い	
参加者へのメッセージ	自己PRや活動に対する思い等	

無断複製、転載、配布など、他の目的への利用を固く禁じます。

表 - 21 募集の概要

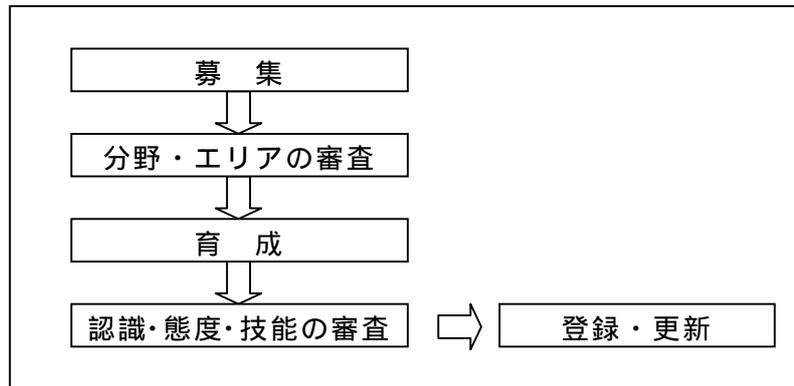


表 - 22 人材応募シート

氏名(フリガナ) :  (  ) 性別 : 男 女

年代 : 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

連絡先 住所 :  電話 :

活動に関係する所属団体 :

活動場所 :  主に活動している場所について具体名で記入

主な活動内容(具体的な実績) :

今後やってみたい活動等 :

活動に関係する保有資格等 :

エコツーリズムに対する考え

その他(自己PRや活動に対する想い等)

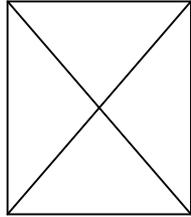
**集めた個人情報は、その目的以外の用途には利用しません。**

ここでの連絡先は、プログラムの申し込みなどの連絡先ではなく、事業の説明や審査、登録に際して必要となる事務連絡のための連絡先を記入する。

表 - 23 登録者リスト

氏名	性別	年代	居住地	登録区分 (役割)	エリア			備考
					山	川	海	

表 - 24 人材情報シート

区分		細別					備考		
氏名(フリガナ)		( )					顔写真 		
ニックネーム									
性別		男 女							
年代		20 30 40 50 60 70代							
居住地(市町村名)		海南町 海部町 穴喰町 その他( )							
連絡先 ガイド申込み先									
登録区分(役割)		ガイド: 解説役 指導役 促進役 / コーディネーター							
活動場所									
専門分野	山エリア	自然: 動物 植物 地形・地質 その他( )							
		社会: 生活 産業 文化・歴史 その他( )							
	川エリア	自然: 動物 植物 地形・地質 その他( )							
		社会: 生活 産業 文化・歴史 その他( )							
	海エリア	自然: 動物 植物 地形・地質 その他( )							
		社会: 生活 産業 文化・歴史 その他( )							
実績	主な活動内容								
	業績 / 資格								
特徴	得意なこと								
	メッセージ								

集めた個人情報、その目的以外の用途には利用しません。

## 5. システムの検証

人材の情報管理システムの実用性や汎用性について検証した。実用性については「下灘エコツーリズムにおける実施例」、汎用性については「グリーンツーリズムにおける実施例」として検証した。

体験型のツアーは、いずれも地域の資源である「自然」「歴史」「文化」「産業」に加え「人」を活用すると言う点で共通しており、運営のプロセスにおいても共通する点が多いことが確認できた。また、人材については、求める役割や能力について差異はあるものの、「指導者と参加者が感動を共有する」と言う点で、本質的な資質面は共通するものと考えられる。

検証の概要は、以下のとおりである。

### (1) 下灘エコツーリズムにおける実施例

人材の情報管理システムの実用性について、実施例をあげ検証した。

検証条件として、エコツ - リズムの運営組織が確立されていない極めて初期の段階(事業で言い換えると、創業初期、あるいは、創業前段階)の地域において、エコツ - リズムの実施を考えている地域とする。その具体的な地域として、ここでは、現在、地域内でエコツ - リズム資源調査事業や自然再生に向けた調査計画事業がなされるなど、エコツ - リズム事業に結びつく要素を備えつつある下灘地域(徳島県海南町、海部町、宍喰町)を選定するものとする。

下灘地域では、平成15年度から宍喰町において自然再生に向けた調査計画事業が、また、平成16年度にはエコツ - リズム資源調査事業が実施されているものの、エコツ - リズム事業を展開する上での体制は未整備であり、当然のことながら、エコツ - リズム的なツアー - の企画・運営等の実績はない。こうした地域の現状を踏まえるとともに、もっとも初期の行為として、下灘地域における運営組織構想(図 - 9 50 頁)を掲げるものとする。当構想は、下灘地域でエコツ - リズムを推進するにあたっての最終形を示したものであるが、関係者らの意識の統一を図るためには最初の段階での提示が不可欠である。

当構想に基づき、人材の募集から登録と活用及び更新に至るプロセスなど必要と考えられる項目についての検討事項を示した。なお、人材管理システムの検証は、当プロセスを円滑に実施するにあたって、有効な管理ツ - ルに成り得るか否かという点に着目して行ったものである。

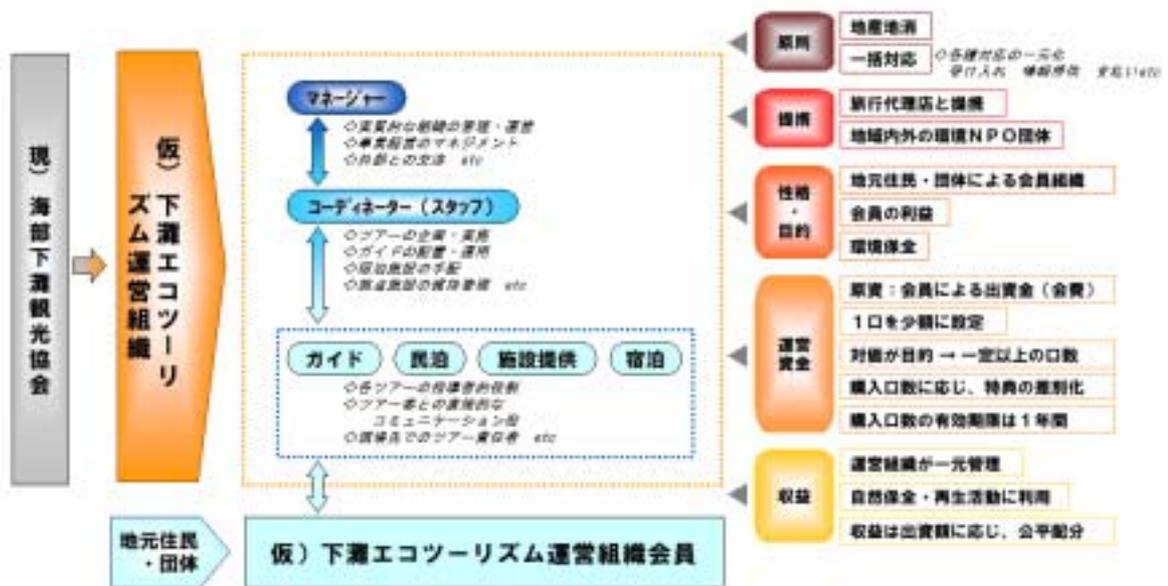


図 - 9 (仮)下灘エコツーリズム運営組織構想

### ・初期人材配置

初期段階で最も重要なことは、エコツ - リズム事業の運営に係わる人材、すなわち、マネージャーとコーディネーター及びガイドの配置とその役割を明確にした運営体制を構築することである。役割については、前出の「3. 求められる人材(24頁)」で記述したのでここでは割愛し、配置について記すものとする。

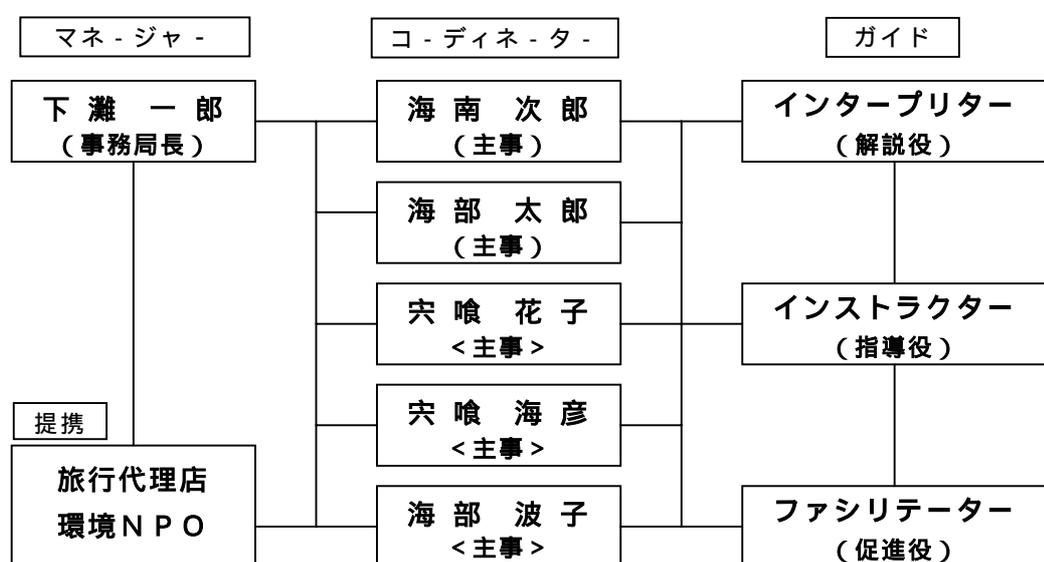
運営組織の構築に関しては、全く一から立ち上げるというのも一つの方策ではあるが、その場合においては、起業家的人材の擁立が不可欠である。しかし、当地域においてそうした人材を発掘することは難しく、また、この形式により運営組織を構築した場合には、組織は私企業的傾向が極めて強くなる可能性が高く、地域主体の事業であることを一つの理念としたエコツ - リズムの運営体制としては好ましくない。運営体制の母体としては、現在何らかの形で、すでに地域に根ざしている組織が望ましい。

下灘地域の現状では、現在、下灘3町（海南町、海部町、宍喰町）が運営している海部下灘観光協会をベ - スとすることが最も実現性が高いと考えられる。当協会は、下灘地域の海南町に本拠をおき、オ - トキャンプ場（「まぜのおか」）やB&G 海洋センタ - （「B & G」）を、事務局長1名と主事5名で管理運営しており、確立された組織体制を擁していることから、エコツ - リズム運営組織への移行・転換も比較的容易である。

当海部下灘観光協会の人材でエコツ - リズム運営体制を組織した場合の役割分担を、図 - 10(51 頁)に示した。なお、ガイドについては、地元人材を発掘・育成するという基本スタンスを堅持することから、ここでは特に記述しない。

マネ - ジャ - は、人材を含む組織全体の管理運営や、提携先との交渉を行い、組織に反映させる役割を担う者で、現在の役割や資質から考え、事務局長が適任である。

また、コ-ディネ-タ-は、ツア-プログラムの企画から実施を担当し、ガイドの役割分担や宿泊施設の案内、使用する施設の手配等、エコツア-の実質的な管理と調整を行う者である。現在既に、「まぜのおか」、「B&G」といった、下灘エコツ-リズムにおいても主要施設に位置付けられるものに精通している点や、地元から起用するガイドとのコミュニケーションや地元宿泊施設や地域事情への精通度等、事業推進に不可欠な多くの要素を現時点ですでに兼ね備えている。これらのことから、コ-ディネ-タ-としての役割を果たすことは、現在の日常業務の延長線上で可能とも考えられ、現在の5名のスタッフ(主事)が適任といえる。



(役職名、まぜのおか)、<役職名、B&G>

図 - 10 下灘エコツ-リズムの運営体制

### ・人材のデータベース化と管理のプロセス

人材のデータベース化にあたっては、エコツ-リズムの普及啓発が何よりも優先される。したがって、募集-登録-活用-更新のプロセスを設定し、図 - 11(52頁)に示した。

設定にあたっては、図 - 9(50頁)に示された「原則」と「提携」にあげられている「一括対応」「旅行代理店と提携」、及び「地域内外の環境NPO団体と提携」を前提とした。

尚、マネージャーは組織の経営者であり、コーディネーターは組織の構成員であることから、人材のデータベース化はガイドを対象にしたものである。

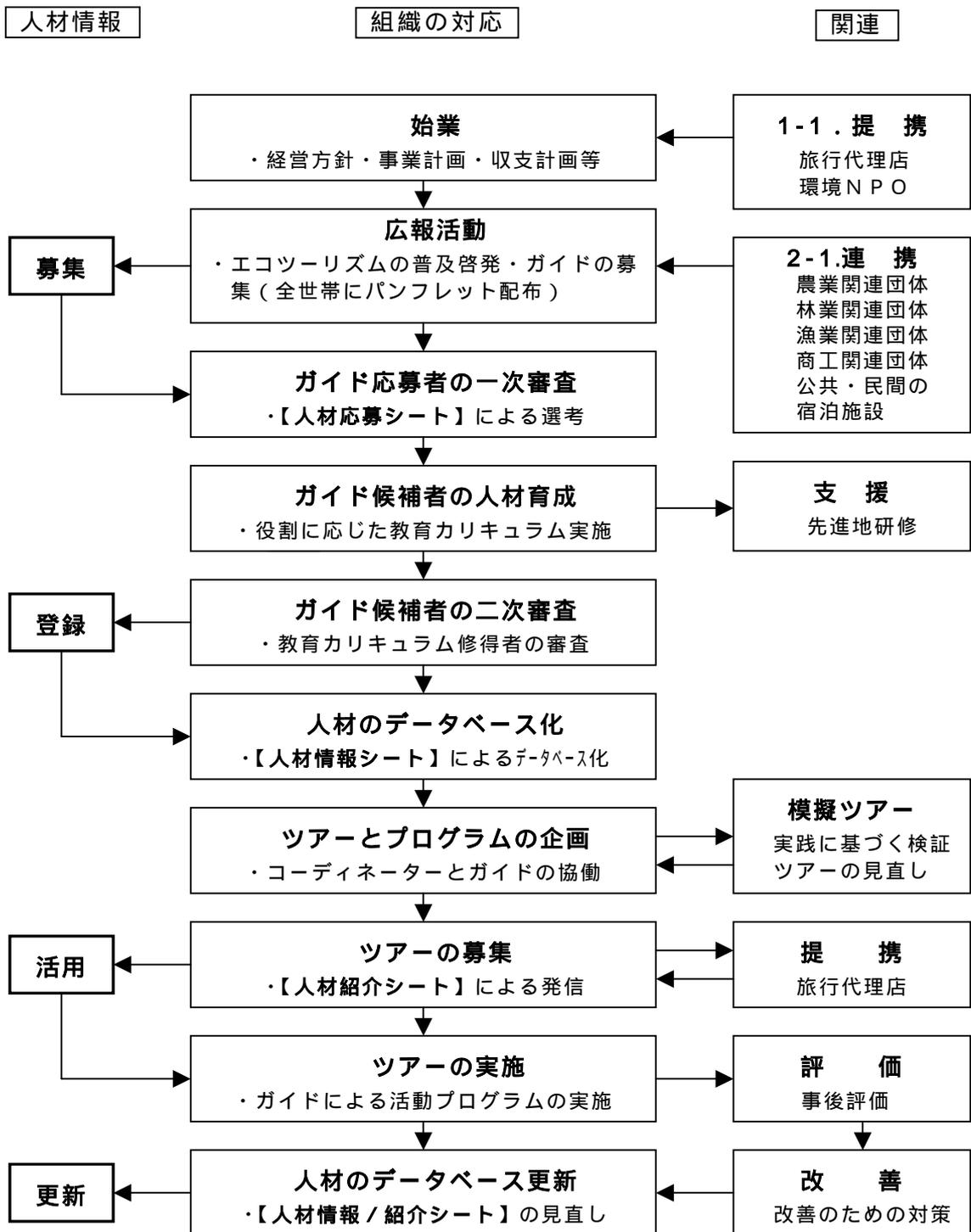


図 - 11 人材のデータベース化と管理のプロセス

## ・各シートの記載例

人材のデータベース化における応募・情報・紹介の各シート(図 - 11 に示した)の記載例は以下のとおりである。

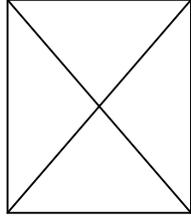
( ) 人材応募シートの記載例

表 - 25 人材応募シート記載例

氏名(フリガナ) :	下灘 太郎 (シモナダ タロウ)	性別 :	男 女
年代 :	20代 30代 40代 50代 60代 70代以上		
連絡先 住所 :	徳島県海部郡海部町 × × 字 番地	電話 :	0884- -
活動に関係する所属団体 :	× × の会		
活動場所 :	海部川	主に活動している場所について具体名で記入	
主な活動内容(具体的な実績) :	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境保全の講演や研修(ごみ拾いや生き物調査)</li><li>・子どもたちを対象に鮎釣りやカヌー体験指導</li><li>・カヌーめぐり(海部川の案内・解説)</li></ul>		
今後やってみたい活動等 :	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境保全活動の実践</li></ul>		
活動に関係する保有資格等 :	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然体験活動リーダー</li><li>・ネイチャーゲーム初級指導員</li></ul>		
エコツーリズムに対する考え			
エコツーリズムについては、あまり詳しく知りませんが、その他に書きました私の想いに通ずるものがあると感じます。			
その他(自己PRや活動に対する想い等)			
活動に対する想い 海部川は多くの自然が残る美しい清流です。清流釣りの醍醐味や河川敷の豊かな自然を満喫するため、毎年多くの方々が訪れます。 皆さんに愛されている海部川の魅力をもっと知ってもらいたいと同時に、豊かな自然を守り後世にまで残したいと思っています。			
私の自慢 <ul style="list-style-type: none"><li>・鮎釣り、川釣り全般。海釣りも少しならできます。</li><li>・吉野川の激流をラフティングしました。</li></ul>			

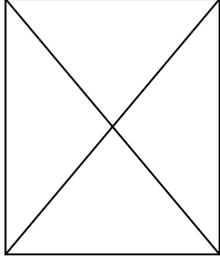
( ) 人材情報シートの記載例

表 - 26 人材情報シート記載例

区 分		細 別	備考
氏名(フリガナ)		下灘 太郎(シモナダ タロウ)	顔写真 
ニックネーム		たろさん	
性 別		男 女	
年 代		20 30 40 50 60 70代	
居住地(市町村名)		海南町 海部町 穴喰町 その他( )	
連絡先 ガイド申込み先		×× の会 住所：徳島県海部郡海部町 ×番地 TEL：0884- - × × FAX：0884- - × × e-mail：kaihuriver@ ×. .jp URL：	
登録区分(役割)		ガイド： 解説役 指導役 促進役 / コーディネーター	
活動場所		海部川	
専 門 分 野	山エリア	自然： 動物 植物 地形・地質 その他( )	
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	
	川エリア	自然： 動物 植物 地形・地質 その他(川遊び全般)	
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	
	海エリア	自然： 動物 植物 地形・地質 その他( )	
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	
実 績	主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全の講演や研修(ごみ拾いや生き物調査)</li> <li>・子どもたちを対象に鮎釣りやカヌー体験指導</li> <li>・カヌーめぐり(海部川の案内・解説)</li> </ul>	
	業績/資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験活動リーダー(自然体験活動推進協議会)</li> <li>・ネイチャーゲーム初級指導員(ネイチャーゲーム協会)</li> </ul>	
特 徴	得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮎釣り、川釣り全般。海釣りも少しならできます。</li> <li>・吉野川の激流をラフティングしました。</li> </ul>	
	メッセージ	<p>海部川は多くの自然が残る美しい清流です。清流釣りの醍醐味や河川敷の豊かな自然を満喫するため、毎年多くの方が訪れます。</p> <p>皆さんに愛されている海部川の魅力をもっと知ってもらいたいと同時に、豊かな自然を守り後世にまで残したいと思っています。</p> <p>カッコいいことを書きましたが、普段はさえないサラリーマンです。休日、海部川で遊ぶことで溜まったストレスを発散しているだけです。ただの川好き、自然好きのおっさんです。</p> <p>こんな私ですが、一緒に海部川で楽しみ、そして自然のすばらしさを感じてみませんか？</p>	

( ) 人材紹介シートの記載例

表 - 27 人材紹介シート記載例

氏名(フリガナ)	下瀬 太郎 (シモナダ タロウ)	顔写真 
ニックネーム	たろさん	
性別	男	
年代	30代	
居住地	海部町	
連絡先	所属団体	×× の会
	住所	徳島県海部郡海部町 ×番地
	TEL	0884- ××
	FAX	0884- ××
	e-mail	kaihuriver@ ×. .jp
	URL	
活動場所	海部川	
ツアー予定	・ ×× 調査体験ツアー / 川沿い清掃・生き物調査	
過去の実績	<p><b>【エコツアーでの実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然体験ツアー / 海部川カヌー下り</li> </ul> <p><b>【個人活動での実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境保全の講演や研修 (ごみ拾いや生き物調査)</li> <li>・ 子どもたちを対象に鮎釣りやカヌー体験指導</li> <li>・ カヌーめぐり</li> </ul>	
保有資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然体験活動リーダー (自然体験活動推進協議会)</li> <li>・ ネイチャーゲーム初級指導員 (ネイチャーゲーム協会)</li> </ul>	
得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鮎釣り、川釣り全般。海釣りも少しならできます。</li> <li>・ 吉野川の激流をラフティングしました。</li> </ul>	
参加者へのメッセージ	<p>海部川は多くの自然が残る美しい清流です。清流釣りの醍醐味や河川敷の豊かな自然を満喫するため、毎年多くの方が訪れます。</p> <p>皆さんに愛されている海部川の魅力をもっと知ってもらいたいと同時に、豊かな自然を守り後世にまで残したいと思っています。</p> <p>カッコいいことを書きましたが、普段はさえないサラリーマンです。休日、海部川で遊ぶことで溜まったストレスを発散しているだけです。ただの川好き、自然好きのおっさんです。</p> <p>こんな私ですが、一緒に海部川で楽しみ、そして自然のすばらしさを感じてみませんか？</p>	

## (2) グリーンツーリズムにおける実施例

エコツーリズムの魅力は、活動の場所とともに同行するガイドの能力や資質が大きく左右する。この点では、グリーンツーリズムやその他の体験ツアーも同様である。しかし、ガイドの役割や求められる能力や資質には違いがある。

そこで、エコツーリズムの人材のデータベース化のために立案したシステムの汎用性について、グリーンツーリズムを例に検証を行った。

### ・システム検証の前提条件

システムの検証にあたり、「日本型グリーン・ツーリズム：都市文化社」より推進施策の方向を引用し、前提条件とした。

#### ( ) 美しい村づくりの推進

生産基盤と生活基盤の一体的整備、地域の景観保全等を図る仕組みの検討。

#### ( ) 受入れ体制の整備

サービス水準の向上、体験インストラクターの養成、宿泊設備の整備とその登録等の仕組みの検討。

#### ( ) 情報システムの構築

都市と農山漁村の相互連携による組織立った情報活動の推進、都市側のニーズの伝達システム等の検討。

#### ( ) 推進・支援体制の整備

官民連携による都市・農村両サイドにおける積極的なキャンペーン展開、企業・団体等の農山漁村の交流を可能とする体制整備、推進の指導体制と官民の協力と分担等の検討。

### ・人材のデータベース化と管理のプロセス

人材のデータベース化にあたっては、エコツーリズムと同様に、募集 - 登録 - 活用 - 更新のプロセスを設定し、図 - 12 に示した。

尚、人材のデータベース化はグリーンツーリズムインストラクターを対象にしたものである。

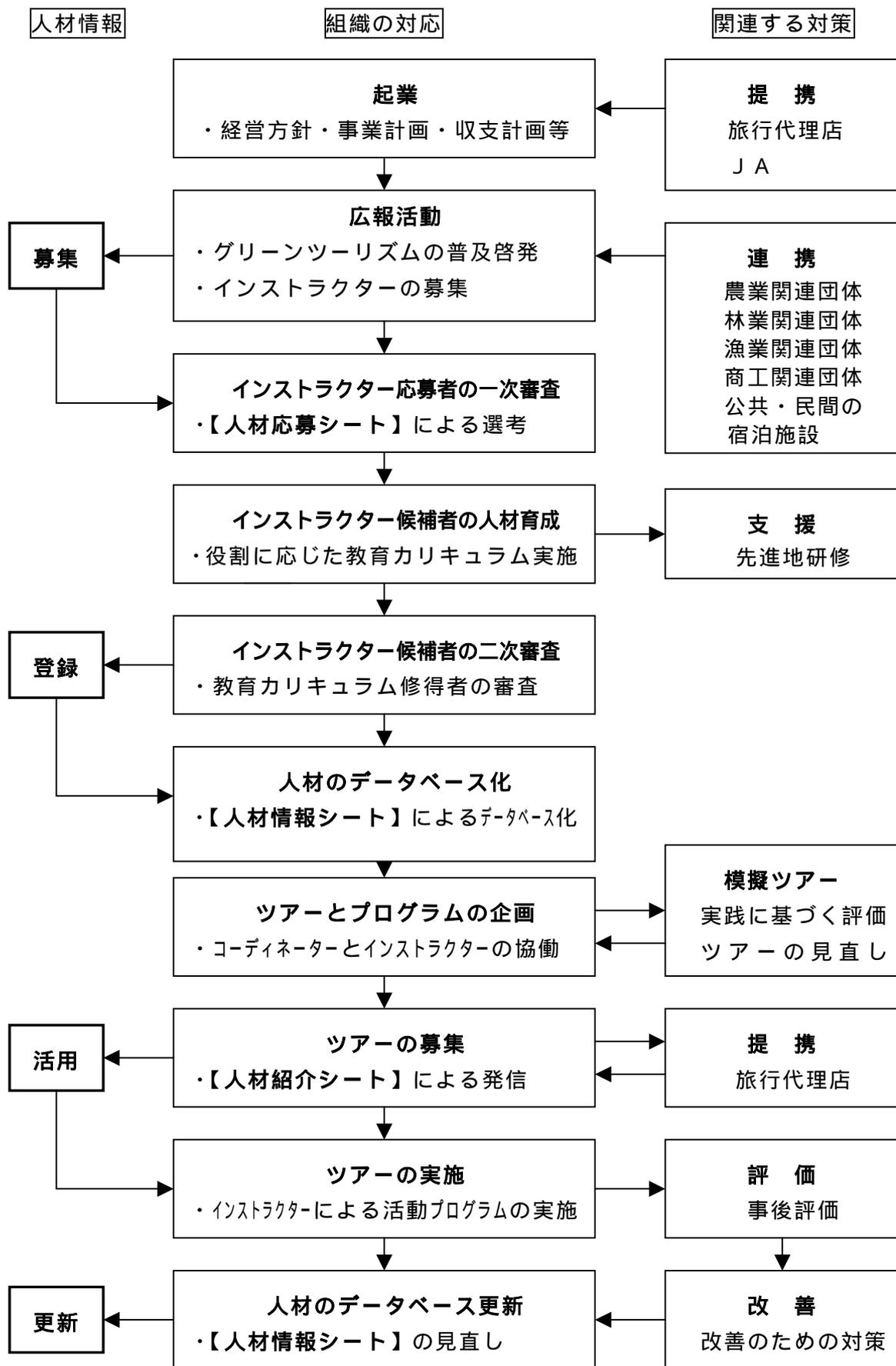


図 - 12 人材のデータベース化と管理のプロセス  
(グリーンツーリズム対象)

### ・各シートの記載例

人材のデータベース化における応募・情報・紹介の各シート(図 - 12 に示した)の記載例は以下のとおりである。

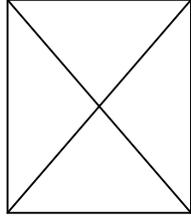
( ) 人材応募シートの記載例

表 - 28 人材応募シート記載例

氏名(フリガナ)：	田畑 花子 (タバタ ハナコ)	性別：	男 女
年代：	20代 30代 40代 50代 60代 70代以上		
連絡先 住所：	×県 郡××村 番地	電話：	02××-4 -68×
活動に関係する所属団体：			
活動場所：	自宅及び田んぼ、畑	主に活動している場所について具体名で記入	
主な活動内容(具体的な実績)：	・田植えや農産物収穫の体験受け入れ		
今後やってみたい活動等：	・農家体験民泊の受け入れ		
活動に関係する保有資格等：	・グリーンツーリズムインストラクター		
グリーンツーリズムに対する考え			
私たちにとっては普通の生活が、都会に住まれている皆さんには珍しいみたいで、驚いています。 ××村は、これといった特徴もなく、高齢化が進んだ農家がほとんどです。経験を活かした農作業の体験を受け入れることで村に人が集まり、少しでも生き生きしてくることを期待しています。			
その他(自己PRや活動に対する想い等)			
はじめは、体験を受け入れることに戸惑いがありましたが、今までの経験をそのまま活かすことができ、ありのままの生活を体験してもらっただけとのでやってみました。 都会の人たちとの交流することでいろいろな発見があり、今では、家族みんな楽しみにしています。 得意なこと ・農作業全般(米作り、にんじん、大根、ほかいろいろ栽培しています。) ・田舎の生活(得意というより普通のことですが・・・) ・虫(虫は好きです。でも作物に付く虫には困ってます。(笑))			

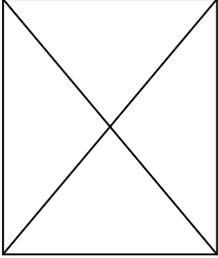
( ) 人材情報シートの記載例

表 - 29 人材情報シート記載例

区 分		細 別	備考
氏名(フリガナ)	田畑 花子 (タバタ ハナコ)		顔写真 
ニックネーム	はなちゃん		
性 別	男 女		
年 代	20 30 40 50 60 70代		
居住地(市町村名)	×町 ××村 町 その他( )		
連絡先 ガイド申込み先	TEL：02××-4 -68× (自宅)		
登録区分(役割)	ガイド： 解説役 指導役 促進役 / コーディネーター		
活動場所	自宅周り		
専 門 分 野	農 業	自然： 動物 植物 地形・地質 その他( )	自宅周り
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	自宅周り
	林 業	自然： 動物 植物 地形・地質 その他( )	
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	
	漁 業	自然： 動物 植物 地形・地質 その他( )	
		社会： 生活 産業 文化・歴史 その他( )	
実 績	主な活動内容	・ 田植えや農産物収穫の体験受け入れ	
	業績 / 資格	・ グリーンツーリズムインストラクター (都市農山漁村交流活性化機構)	
特 徴	得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農作業全般(米作り、にんじん、大根、ほかいろいろ栽培しています。)</li> <li>・ 田舎の生活(得意というより普通のことですが・・・)</li> <li>・ 虫(虫は好きです。でも作物に付く虫には困ってます。(笑))</li> </ul>	
	メッセージ	<p>はじめは、体験を受け入れることに戸惑いがありましたが、今までの経験をそのまま活かすことができ、ありのままの生活を体験してもらっただけとのことでしたのでやってみました。</p> <p>都会の人たちとの交流することでいろいろな発見があり、今では、家族みんな楽しみにしています。</p> <p>私の家は、3世代同居の10人と3匹の犬の大家族です。体験にこられた方は、それだけで驚かれています。泊まられる方には、うるさいぐらいのにぎやかな宿泊となると思いますが、それでもよろしければ、一度体験してみませんか？</p>	

( ) 人材紹介シートの記載例

表 - 30 人材紹介シート記載例

氏名(フリガナ)	田畑 花子 (タバタ ハナコ)	顔写真 
ニックネーム	はなちゃん	
性別	女	
年代	40代	
居住地	××村	
連絡先	所属団体	
	住所	
	TEL	02××-4 -68× (自宅)
	FAX	
	e-mail	
	URL	
活動場所	自宅周り	
ツアー予定	・××農業体験ツアー / 農家民泊	
過去の実績	<p><b>【ツアーでの実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・××村まるごと体験ツアー / 田植え</li> </ul> <p><b>【個人活動での実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えや農産物収穫の体験受け入れ</li> </ul>	
保有資格	・グリーンツーリズムインストラクター (都市農山漁村交流活性化機構)	
得意なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業全般(米作り、にんじん、大根、ほかいろいろ栽培しています。)</li> <li>・田舎の生活(得意というより普通のことですが・・・)</li> <li>・虫(虫は好きです。でも作物に付く虫には困ってます。(笑))</li> </ul>	
参加者へのメッセージ	<p>はじめは、体験を受け入れることに戸惑いがありましたが、これまでの経験をそのまま活かすことができ、ありのままの生活を体験してもらっただけとのことでしたのでやってみました。</p> <p>都会の人たちとの交流することでいろいろな発見があり、今では、家族みんな楽しみにしています。</p> <p>私の家は、3世代同居の10人と3匹の犬の大家族です。体験にこられた方は、それだけで驚かれています。泊まれる方には、うるさいぐらいのにぎやかな宿泊となると思いますが、それでもよろしければ、一度体験してみませんか？</p>	

## 6. 今後の取組みへの提言

下灘地域でのエコツーリズムの推進を例にとり、システムの検証を行った結果、運営組織の立上げ及び人材データベース化に向けて、統一された形式による人材情報の収集と、明確な審査基準に基づく人材の育成が大きな課題としてあげられた。

したがって、今後の取組みへの提言として、(1) 運営と展開例、(2) 人材の発掘、(3) 人材の育成、(4) 施策の提言について以下に示した。

### (1) 運営と展開例

エコツーリズムの普及は、事業に先立ち優先する事項である。このことを踏まえ、運営組織の行うべきプロセスとして提案する。初期段階における始業からツアー - 実施、及びそれに関連する、事業プロセスを図 - 14(62 頁)に示す。なお、運営組織としては、図 - 13 に示す(仮)下灘エコツーリズム運営組織構想に基づくものとした。

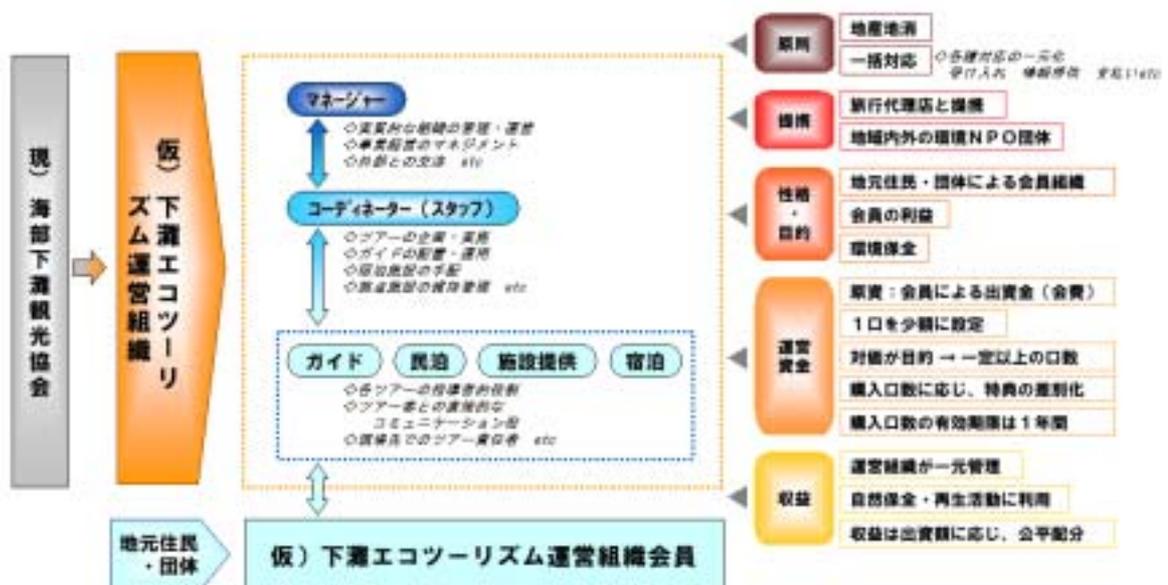


図 - 13 (仮)下灘エコツーリズム運営組織構想

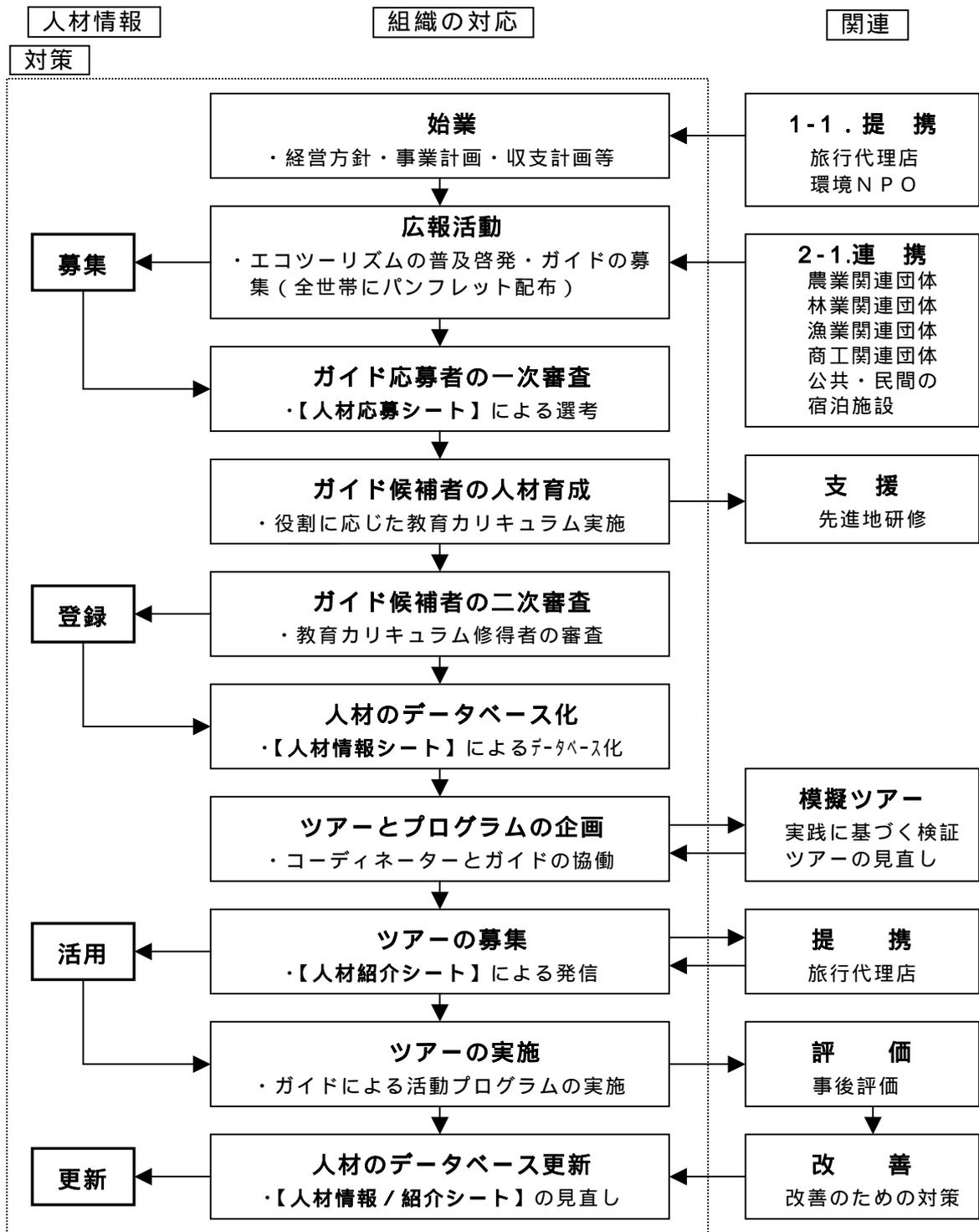


図 - 14 初期段階における事業プロセス

## 始業

経営方針：一括対応・地産地消、旅行代理店・環境 NPO との提携

ツアー客の受け入れから、各種エコツアーや宿泊施設の情報提供、支払い等の一元化を図る。提供する物品は、下灘地域を産地とするものを使用することを原則とする。また、旅行代理店との提携および地域内外の環境 NPO と連携し、運営を図ることを原則とする。

(仮)下灘エコツ - リズム運営組織は、地元住民・団体等による会員を母体とし、会員により、会員の利益と環境保全のために運営されるものとする。

### 事業計画

ツアー - を運営するガイドの人数、資質等も限られたものであるため、コ - ディネ - タ - やガイドの得意分野に応じた事業を行うものとする。ただし、物産の販売などは、関係機関に依頼し、できるかぎり多くの商品にエコツ - リズム地域の物産であることが分かるようなロゴ等を表示してもらい、地域内外への下灘エコツ - リズムの浸透を図る。現地での即売会や試食会などを積極的に実施する。

なお、事業の段階に伴い、下灘地域全ての自然環境資源、文化活動、社会活動、物産等を、エコツ - リズム事業の対象範囲とし、自然環境の保全と地域の活性化を主目的とした事業拡大を図るよう展開する。

### 運営資金

事業の運営資金は、原則として会員（地域住民・団体）による出資金を原資とする。

- )ここで、地域団体とは、地元の自治体や私企業、公的団体、組合組織、協会、など、地元の本拠をおく、あらゆる団体を指す。
- )さらに、事業の主旨に賛同する地域内外の個人・組織の参画も認めるものとするが、その場合には、運営の主体が地域であることを事前に了承を得た上での参画・出資とする。その意味でも出資額による発言権の多寡は認めないことを原則とする。
- )会費収集は、運営資金の確保を目的の一つとするが、その主たる目的は、地域住民・団体にエコツ - リズム事業の認識と、事業への参加意識を自覚してもらうことである。そのため、参画者各々が過度の負担を感じない範囲で、事業リスクを受け持つ必要がある。会費の額としては、小中学生や主婦、年金受給者など、様々な経済条件を持つ不特定多数の参加を視野に入れ、一口の額面は、例えば 100 円 / 口(運営組織ごとに、事業の発展段階に応じて 1,000 円 / 口とすることなどを判断する)とするなど、できるだけ少額に設定する。
- )ガイドや民泊及び土産物販売など、(仮)下灘エコツ - リズム運営組織の枠内で個別の対価を得ることを目的とした事業を行う個人、または組織は、原則として一定以上の口数を購入すること。(例えば、10,000 円 / 年など)。これについても、運営資金の確保という観点もあるが、その主たる目的は、参

加者（観光客）と直接接する役割を持つ組織・個人には、一般会員より多くの責任を持ってもらうことである。

)購入口数に応じて、特典内容のレベルに違いを持たせるようにする。

ここで、特典とは、下灘エコツ・リズムブランド商品の製作・販売、下灘エコツ・リズム事業のホームページでの事業紹介掲載などである。なお、(仮)下灘エコツ・リズム推進会議での発言権は購入口数(出資額)によらないものとする。

)購入口数の有効期限は1年間とする。(この点で一口株主とは異なる)

)本来、年会費を原資とする事業運営が望ましく、それを最終の目標とするが、事業の初期段階では困難であるため、現在の海部下灘観光協会の事業資金を充当することや、地方自治体が大口会員になるなどの対応が必要である。将来的には、運営資金における地方自治体などの「官製」資金比率の低減が図られるように展開する。

#### 収益の一元化

エコツ・リズム事業収益は、(仮)下灘エコツ・リズム運営組織が一元管理する。

#### 収支計画目標と公平な配分

エコツ・リズム事業収支は、直接経費や資源保護費、および組織の将来投資等、事業経費を含めた、経常収支ベ－スでの黒字化と、1口あたりの会費額を上回る程度(一口あたりの会費額の1.0～1.1倍程度)の還元金の確保を目指す。

収益は、購入口数(出資金)に応じて公平配分するものとする。配分する収益が少ない場合(例えば、収益ゼロの場合)などには、その旨を出資者(会員)に通知し、次年度への繰り越しとするなど、柔軟に対応する。

なお、事業初期段階においても、赤字を出さないことを原則とする。

#### 広報活動

広報活動を行う主な目的は、エコツ・リズムを行っている事実の通知、ガイドの募集、および地域の人によるエコツ・リズム資源の発掘である。

最も大切なのは、地域をあげた地域の手によるエコツ・リズムを推進していることと、その理念の理解を得て、地域に根ざした事業とすることである。

具体的な方法としては、全世帯へのパンフレットの配布(周知とエコツ・リズム資源情報の提供依頼が主目的)、町報への掲載、新聞への掲載、説明会・講演会の開催、及び下灘3町(徳島県海南町、海部町、穴喰町)の各ホームページへの掲載開設による情報発信である。

ただし、事業の発展に伴い、(仮)下灘エコツ・リズム運営組織で単独のホームページを開設し、様々な情報の外部発信と、全国の団体や個人と双方向交信を行えるように展開する。

また、下灘エコツ・リズム事業は、下灘地域の活性化を図ることを基本理念の一つとしていることから、地域産業である農業、林業、漁業、商工の関連団体と連携を図る必要がある。関連団体は、地元産品のエコツ・リズム用の食材としての納入や、作り方や調理方法などの説明書や案内書を通じた宣伝、即売

会などを行う。(仮)下灘エコツ - リズム運営組織は、それらの機会を作るための工夫を行い、共栄関係と相互信頼を築けるよう、初期段階から展開する。

さらに、地域の宿泊施設との連携を図ることは極めて重要である。特に事業の初期段階においては、民泊などの手法に頼ることのできる可能性は低く、既存の宿泊施設（公共と民間共）を活用せざるを得ない。参加者の多くは、宿泊施設で一定の時間を過ごすことになり、気分的にもリラックスした状態であることから、様々な感性に浸ることができる可能性が高い。したがって、宿泊施設の優劣（規模や豪華さという意味ではない）や、下灘エコツ - リズムに対する理解度は、下灘エコツ - リズムを利用した参加者の満足度を大きく支配する。そのため、事業の初期段階においては、宿泊施設関係者の理解と協力を得ることに、特に力を注ぐべきである。

#### ガイド応募者の一次審査

ガイド応募者の一次審査は、広報活動を行う際に配布する人材応募シートで、応募者の得意とすることや、得意とするフィールドを把握し、次のステップでどの分野の人材を育成するか、あるいは、ガイドとして適任であるか等を審査する段階である。ただし、事業の初期段階においては、原則として、応募者は全てステップ のガイド候補者に該当するものとする。具体例としては、南阿波よくばり体験観光(6町、徳島県由岐町、日和佐町、牟岐町、海南町、海部町、穴喰町で運営)でのガイド募集への応募者の内、下灘地域在住の者や、徳島県のエコファーマーリストに記載されている者については、ガイド候補者に該当するものとする。

#### ガイド候補者の人材育成

前出の「3. 求められる人材(24頁)」で述べたガイドの役割と能力の分類表を目安にガイド候補者に対して人材育成を行う。人材育成には、研修制度や全国組織の自然学校などを活用する。

それぞれの得意分野や生業としているものについては、基本的に解説役としての「認識」や「技能」の項目は、満たしているものと考えられる。また、それらへの従事期間や執着度合い、その地区での居住期間などによって異なるが、多くの場合、指導役としての「認識」や「技能」も備えているものと考えられる。したがって、人材育成での、修得項目は「態度」で、「認識」と「技能」については、環境的側面、すなわち、自然環境の成り立ちや環境問題等を理解した上で、参加者に接する必要があることから、それらの再確認と再意識を図る。

事業の初期段階においては、ガイド数の確保の観点から、特に「解説役」を念頭におき、事業展開を図る。

人材育成としては、「態度」、すなわち、エコツ - リズムと名うったツアー - を展開している以上、環境的側面からの社会的道徳や倫理（例えば、わかりやすいところでは、タバコのポイ捨てやゴミの投棄など客があきれる行為の絶対禁止）での接客行為の修得である。また、参加者（客）の反応を見て、参加者の

理解度に適した態度で対応できる接客態度の修得も大切である。講師としては、地元の接客業関係者に心得を聞いたり、提携先の旅行代理店のスタッフ、あるいは、民間のサ - ビス業者を活用する。さらに、「認識」と「技能」の環境的側面（自然環境の成り立ちや環境問題等）からの再確認と再意識については、県内の環境保全活動団体と連携を図り、その団体の指導者や登録者を講師として依頼する。

ガイドの能力の定義を以下に示す(前出、表 - 15(28 頁)より抜粋、加筆)。

「認識」: 促す方向を見誤らないための見識を備えていることで、主に次の 3 項目を指す。

1. 自然生態系を通して捉える能力
2. 現代社会の構造的な問題の把握
3. 環境教育についての正しい認識

「態度」: 環境問題や参加者に対する姿勢をしっかりと持ち、参加者に対してしっかりとした態度で、かつ不快感を与えず接する能力のことで、主に次の 2 項目を指す。

1. 環境問題に対する指導者の姿勢
2. 参加者に対する指導者の姿勢

「技能」: 参加者のやる気を起こす指導技術を備えていることで、主に次の 3 項目を指す。

1. 環境教育を企画する能力
2. 環境教育を進める上での手法
3. 自己をふりかえる能力

#### ガイド候補者の二次審査

育成されたガイド候補者をガイドの役割と能力に応じて審査・分類する。

事業の初期段階では、育成された候補者は、すべて、解説役に分類する。

#### 人材のデ - タベ - ス化

上記 で審査した候補者について、人材情報シ - トの各欄を埋めるように登録し、デ - タベ - ス化する。事業の初期段階では、育成された候補者は、すべて、解説役として登録する。得意なことや活動分野などは、コ - ディネ - タ - がツア - プログラムを企画するときや、ガイドを依頼するときなどにも、重要な基礎情報となるため、面接や電話によるヒアリングなどを行って、意思の疎通を図るとともに、できるだけ多くの情報を収集する。

人材情報シ - トは、ファイリングし、主要な項目にインデックス等をつけるなど、誰が見てもわかりやすいように、かつ厳重に管理する。最終的には、デジタルデ - タ化することを目指す。

#### ツア - とプログラムの企画

下灘地域全てを、エコツ - リズムの対象範囲とするが、事業の初期段階にお

いては、ツアーを運営するガイドの人数、資質等も限られたものであるため、コーディネーターやガイドの得意分野に応じた事業を行うものとする。例えば、「まぜのおか」や「B & G海洋センター」を中心に実現可能な範囲で、事業を展開するものとする。あるいは、ガイドが穴喰町に詳しい者であれば、竹ヶ島海中公園周辺や船津キャンプ場周辺など、比較的利用しやすい箇所や施設を中心に事業展開を図る。いずれにおいても、最も大切なことは、ツアーを展開するフィールドについて地権者及び農林漁業等の関係者に十分な説明を行い、理解と協力を得ておくことである。

また、地域の観光産業の現状を鑑みた閑散期（秋・冬・春）の集客、事業の基本理念でもある、地域の生活や文化・自然生態系に対する学習効果を踏まえて、通年参加型のエコツアーを軸とした企画が望ましい。例えば、農業体験の米作りで冬季の田起こしなどの作業にも参加できるようなメニューを組み込み、年間を通してのツアー客やリピーター確保を図る。

#### ツアーの募集

旅行代理店への売り込み営業も大切であるが、特に事業の初期段階では、農協、漁協、企業、市町村などの団体、あるいは学校など、各関係機関を直接回って集客を図ることが一層大切である。また、全国のエコリズム推進地域との連携を取り、互いにツアー客となることは、意識の高揚や新たな発見、熟練度向上等にもつながるため重要なことである（特に、閑散期）。なお、各町のホームページにはツアー募集の広告の掲載を依頼する。

#### ツアーの実施

ガイドによる活動プログラムを実施する。

事業の初期段階においては、1ツアーに対し、ガイドはできる限り複数名をつけるものとし、コーディネーターは、必ず同伴するものとする。これは、ツアー実施後の事後評価と改善を、ガイドとコーディネーターが互いに相談することが、事業の早期発展に極めて重要なプロセスになるからである。また、ツアー参加者には、リピーター確保と口コミによる宣伝力を期待し、必ず地元の物産をお土産として提供することが大切である。なお、お土産として提供するものは、原則として低廉で特徴のあるものとする。例えば、流木や地元木材を活用した参加者自作の物品、地域特産の作物や物品等があげられる。

#### 人材のデータベース更新

ツアーの実施後はそれぞれの役割の立場から、ツアー実施内容の評価を行うとともに、ツアー参加者から、ツアーに対する感想や意見等を集め、ツアー全体の総合的な評価を行い、今後のツアー企画や実施への改善対策を講じる。

これに並行して、ガイドに対しても同様に評価、改善し、登録されている人材情報の内容を見直し、必要であれば更新する。

## (2) 人材の発掘

エコツーリズムを推進するうえで、人材の発掘は重要であり、エコツアー運営の出発点ともなるため早急に対策が必要である。

必要な人材は、「3. 求められる人材(24頁)」において整理した、ガイド、トレーナー、コーディネーター及びマネージャーがあり、これらの役割に応じた能力を持つ人材である。ガイドについては、「(1) 運営と展開例(61頁)」で述べたように、最初から全ての能力を兼ね備えた人材の発掘を目指すのではなく、人材育成を前提に、経験を重ねることでガイドとして育成していく必要がある。トレーナー、コーディネーター、マネージャーについては、ある程度、能力と経験を持つ人材が必要であり、事業者側の立場になりえる人材を発掘する必要がある。

このことから、下灘地域の住民一人ひとりに対して、エコツーリズムの周知を図りながら応募を呼びかけることを優先しつつ、地元の企業や団体、及び地域で活動する環境保全活動団体等にも同様に応募を呼びかけ、経験者を発掘する。また、これら既存団体の人材と連携を図ることで、人材ネットワークを拡大し、相互に活用できる統一された人材データベースを構築する。

人材の発掘にあたっては、人材の発掘対象者の主な役割・特性と発掘方法を表-31に整理し、具体的な人材の発掘調査の対象として各種団体を表-32~34に整理した。

表 - 31 人材発掘対象者の主な役割・特性と発掘方法

役割	発掘対象者の特性	発掘方法
<b>ガイド</b> ・ ツアーの直接的指導者 ・ ツアーの案内や解説	・ 地域に精通した人材(地域住民を基本とする) ・ 地域や自身の職業に対して愛着と誇りを持った人材	・ 地域住民への募集(パンフレットの配布、ホームページへの記載、説明会の開催等) ・ 既存の関係団体への募集 ・ 地域内の資格保有者への募集(表-35(71頁)参照)
<b>トレーナー</b> ・ ガイドの育成や指導 ・ 人材育成に関する講座の企画・運営・講師	・ トレーナーとしての資格を有する人材 ・ ガイドに関する豊富な知識と経験を有する人材	・ 徳島県内の資格保有者への募集(表-36(71頁)参照) ・ 先進地の人材認定者への依頼や派遣制度の活用
<b>コーディネーター</b> ・ ツアーの企画及び実施 ・ ツアーの実質的な管理・調整	・ ツアーの企画・運営等の旅行業に関する豊富な知識と経験を有する人材 ・ 旅行添乗員及び旅行代理店勤務経験者	・ 既存の団体・組織との人材交流や転職者の募集(表-32・33(69頁)参照) ・ 徳島県内の資格保有者への募集(表-36(71頁)参照) ・ 経験豊富な退職者への募集 ・ 一般公募(U・ターン等)
<b>マネージャー</b> ・ 事業リスクのマネジメント及び外部との交渉や庶務・財務等 ・ エコツーリズム事業の継続と推進	・ 組織の管理・運営等の組織経営に関する豊富な知識と経験を有する人材 ・ 旅行業などの私的企業や法人、協会等の経営経験者	・ 既存の団体・組織との人材交流や転職者の募集(表-34(70頁)参照) ・ 経験豊富な退職者への募集 ・ 一般公募(U・ターン等)

表 - 32 県南の環境保全活動団体（コーディネーター関連）

所 属	所在地	役職等	氏名
NPO法人 大里海岸キレイなあ	海南町大里	代表者	中上 益雄
NPO法人 あど未来	穴喰町大字穴喰浦	代表者	石川 侃
NPO法人 海都	阿南市橘町	代表者	森本 秀樹
NPO法人 阿南フレンドシップ	阿南市富岡町	代表者	四宮 浩
だあ～海部川	海南町大里	代表者	岡田 齊

表 - 33 県南以外の環境保全活動団体（コーディネーター関連）

所 属	所在地	役職等	氏名
NPO法人 自然スクールトエック	徳島市新蔵町	代表者	伊勢 達郎
NPO法人 吉野川みんなの会	徳島市昭和町	代表者	伊勢 達郎
NPO法人 里山の風景をつくる会	徳島市八万町	代表者	近藤こよ美
NPO法人 阿波遊木民	徳島市八万町	代表者	芦谷 勝久
NPO法人 徳島海清会	徳島市東沖洲	代表者	池添 恭弘
NPO法人 徳島県森の案内人ネットワーク	麻植郡山川町	代表者	佐藤 久夫
NPO法人 ウォームス・ネット	徳島市春日町	代表者	松永 誉
勝浦川流域ネットワーク	上勝町大字生実	代表者	谷崎 勝祥
グリーン・プラネット・ミーティング	徳島市八万町	代表者	岩野 泰典
とくしま自然観察の会	徳島市南昭和町	代表者	井口利枝子
徳島自然農塾	市場町大俣	代表者	沖津 一陽
上勝棚田を考える会	上勝町大字生実	代表者	谷崎 勝祥
パンダクラブ徳島	徳島市住吉	代表者	今出 宗孝
エコロジーの森を創る会	徳島市北佐古	代表者	森本 康滋
日本野鳥の会徳島県支部	徳島市南庄町	代表者	曾良 寛武
徳島県保全生物学研究会	徳島市名東町	代表者	八木 静夫

表 - 34 企業及び団体（マネージャー関連）

所 属	所在地	役職等
四国旅客鉄道株式会社	徳島市寺島本町	徳島県統括マネージャー
まぜのおか	海南町	事務局長
海南 B & G 海洋センター	海南町	代表者
阿波海南文化村海南町立博物館	海南町	館長
徳島海南天文台	海南町	代表者
大うなぎ水族館イーランド	海部町	館長
遊遊 N A S A	海部町	支配人
ホテルリビエラししくい	穴喰町	支配人
国民宿舍みとこ荘	穴喰町	支配人
海中観光船ブルーマリン	穴喰町	管理責任者

### （３）人材の育成

人材の発掘後は、ガイドとして活動するための能力が必要であり、育成するためには、インタプリター(解説役ガイド)、インストラクター(指導役ガイド)、ファシリテーター(促進役ガイド)のそれぞれの役割に求められる要素や評価(審査)基準を明確にする必要がある。

評価(審査)基準としては、既存の資格認定制度があるが、下灘地域の自然、歴史、文化、産業等、下灘地域に関する総合知識を加える必要がある。

人材の育成には、評価(審査)基準とともに重要なのがガイドを育成できるトレーナーである。下灘地域内において専任のトレーナーを発掘できることは理想であるが、当面は研修制度を活用しガイドを育成するとともに、トレーナーとしての技術も学ぶ必要がある。

また、下灘地域内には、既存の資格認定制度の資格保有者がおり、徳島県内に対象を広げると、自然体験活動指導員(自然体験活動推進協議会)のトレーナー資格者が存在する。そのほか、自然学校指導者(日本環境教育フォーラム)の OJT(自然学校実習)受入れ校として、NPO 法人自然スクール TOEC もあり、これらを活用することも有効である。

参考として、表 - 35下灘地域内の資格保有者(71頁)と表 - 36下灘地域を除く徳島県内の資格保有者(71頁)のリストを整理した。

表 - 35 下灘地域内の資格保有者（ガイド関連）

氏名	居住地	保有資格
土田 豊	海部町	自然体験活動リーダー
津田 一	海部町	自然体験活動リーダー グリーンツーリズムインストラクター ネイチャーゲーム初級指導員
横見 定良	穴喰町	自然体験活動リーダー

(自然体験活動推進協議会・都市農山漁村交流活性化機構のホームページより)

表 - 36 下灘地域を除く徳島県内の資格保有者（トレーナーとガイド関連）(その1)

氏名	居住地	保有資格
池田 良一	徳島市	自然体験活動リーダー
戸川 満夫	徳島市	自然体験活動リーダー
橋本 泰子	徳島市	自然体験活動リーダー
和田 美文	徳島市	自然体験活動リーダー
高山 光	徳島市	自然体験活動リーダー
山引 満男	徳島市	自然体験活動コーディネーター 自然体験活動トレーナー1種 ネイチャーゲーム上級指導員
吉川 真紀	徳島市	自然体験活動リーダー
山住 永枝	徳島市	自然体験活動リーダー
宮崎 正代	徳島市	自然体験活動リーダー
坪井 静子	徳島市	自然体験活動リーダー
鈴江 恭代	徳島市	自然体験活動リーダー
井関 純子	徳島市	自然体験活動リーダー
谷 芙美代	徳島市	自然体験活動リーダー
片山 善貴	徳島市	自然体験活動リーダー
眞名子佳奈子	徳島市	自然体験活動リーダー
川口 佳彦	徳島市	自然体験活動リーダー
山田 智代	徳島市	自然体験活動リーダー
富永 覚	徳島市	自然体験活動コーディネーター
南 隆尚	徳島市	自然体験活動コーディネーター
広瀬 民義	徳島市	自然体験活動コーディネーター
花岡 史恵	徳島市	自然体験活動リーダー
花岡 良昭	徳島市	自然体験活動リーダー
小笠原 伸也	鳴門市	自然体験活動リーダー

(自然体験活動推進協議会・都市農山漁村交流活性化機構のホームページより)

表 - 36 下灘地域を除く徳島県内の資格保有者（トレーナーとガイド関連）（その2）

氏名	居住地	保有資格
正木 洋子	鳴門市	自然体験活動リーダー
平澤 学	鳴門市	自然体験活動リーダー
高田 沙織	鳴門市	自然体験活動リーダー
上坂 留理子	鳴門市	自然体験活動リーダー
沢田 伊都香	鳴門市	自然体験活動リーダー
坂本 亜衣	鳴門市	自然体験活動リーダー
上田 暁美	鳴門市	自然体験活動リーダー
末松 寛之	鳴門市	自然体験活動リーダー
太田 尚子	小松島市	自然体験活動リーダー
吉見 千代	小松島市	自然体験活動リーダー
井上 基浩	小松島市	自然体験活動トレーナー1種
倉 幸男	北島町	自然体験活動リーダー
田上 佳美	北島町	自然体験活動リーダー
大野 雅子	土成町	グリーンツーリズムインストラクター
桑原 豊秀	吉野町	自然体験活動リーダー
山下 和利	市場町	自然体験活動リーダー
武市 功	上勝町	自然体験活動リーダー
祖父江 安三	脇町	自然体験活動リーダー グリーンツーリズムインストラクター
藤尾 良信	脇町	自然体験活動リーダー グリーンツーリズムインストラクター
荒岡 清秀	美馬町	自然体験活動リーダー
荒岡 由里	美馬町	自然体験活動リーダー
高原 清秀	三加茂町	自然体験活動リーダー
堀川 まき子	井川町	自然体験活動リーダー
藤本 昇	池田町	自然体験活動リーダー
丸岡 美枝	池田町	自然体験活動インストラクター
東 衛史	羽ノ浦町	自然体験活動リーダー
澤田 俊明	羽ノ浦町	自然体験活動リーダー
正木 暁子	日和佐町	グリーンツーリズムインストラクター

（自然体験活動推進協議会・都市農山漁村交流活性化機構のホームページより）

#### (4) 方策の提言

地域資源の活用は、地域に暮らす人々が既存する地域固有の資源を如何に利活用するかが問題となる。したがって、資源発掘以上に人材の発掘と育成、及び地域資源の市場価値の把握が大きな課題である。このことから、地域の実情に即した実効性のある取組みが発展するためには、国内外のニーズを多面的に捉え、的確に分析評価し、その情報などを広く発信するための仕組みづくりが求められる。

今後の取組みとして、地域資源活用に関する事業推進における段階的な支援が必要不可欠であり、官民連携によって取組むべき施策を「事業推進」と「人材育成」及び「人材活用」の三つの視点から以下のことを提言する。

尚、これらの実現と共に地方に対しては、地域の人材活用や育成の視点から、多様な資源（人・物・金・情報等）の提供による柔軟な支援が強く求められる。

##### ・事業推進のための施策

###### ( ) 地域資源活用アセスメント制度

国内外のマーケティング調査に基づき、地域資源の活用計画を分析し、その実現性を評価することで、効率的・効果的な事業推進を支援する。

地方に対しては、資源調査と分析評価及び活用計画等に伴う費用や市場価値及び実現性に関する情報等について支援する。

###### ( ) 地域資源活用プロデュース制度

個々に立案された地域資源の活用計画に基づき、事業推進のための体制づくりや組織強化など、事業化のための支援を行う。

地方に対しては、地域資源の活用による事業計画や収支計画などについて、事業企画に伴う費用や、採算性及び継続性等に関する情報等について支援する。

###### ( ) 地域資源活用コーディネート制度

都市と地方の対流促進を図るために、国内外におけるニーズと地方におけるシーズをつなぐ仕組みづくりを展開し、全国的なネットワークを構築する。

地方に対しては、地方の個別事業におけるコーディネーター養成のためのアドバイザー派遣や、地域間交流のためのコーディネーターネットワークの構築を支援する。

###### ( ) 地域資源活用モニタリング制度

地域資源の活用による事業の適切な運用を検証するために、継続的な評価システムを制度化し、その評価結果を公開して、事業者と利用者の双方に情報発信する。

地方に対しては、あらかじめ定めた主要な評価項目について、報告義務を課すと共に、それに伴う費用やモニタリングの指導等について支援する。

( ) 地域資源活用フォローアップ制度

地域資源の活用による事業の発展的成長を維持するために、継続的改善を制度化し、変化するニーズへの対応やサービスの向上を促進するための支援を行う。

地方に対しては、前項にあげたモニタリング制度に対応して、改善の要求事項に対する解決策の助言や指導等について支援する。

・人材育成のための施策

( ) 人材派遣及び研修制度

事業推進にあたっては、段階に応じて様々な能力や知識を持った人材が必要であり、地元の人材を中心に事業を運営するためにも、その専門的な能力や知識を学ぶための支援制度が必要である。

したがって、運営組織の立上げ段階における経営者の育成や運営全般に関するアドバイス、実務を担当する人材の育成のほか、一定期間を経て事業の評価・改善を図るためのアドバイス等、事業推進の各段階に応じて、トレーナーやアドバイザーの派遣制度及び先進地を活用した研修制度など、人材育成を支援する制度を構築する。また、派遣や研修の終了後においても、特定テーマに対応した講座の開催や、疑問質問等を受け付ける相談窓口を設けるなど、フォローアップ可能な制度として展開する。

( ) 人材保証及び認定制度

人材を育成するためには、育成目標となる基準をもとに、必要な知識や能力を学ぶためのカリキュラムが必要である。

したがって、事業運営における基本的事項をはじめ、役割に応じた知識や能力のほか、地域に関する知識について学ぶカリキュラムを構築するためのマニュアルを作成する。作成にあたっては、既存認定制度の活用や認定機関との連携により柔軟に対応できるものとする。

・人材活用のための施策

( ) 人材登録制度

事業推進においては、様々な問題が発生し、その対応に苦慮する場合や、更なる発展を目指すことで、新たな課題に直面することも考えられる。上記( )に述べた「人材派遣及び研修制度」の活用も然る事ながら、単発的な問題や課題に対してより簡易で身近な支援が求められる。

したがって、様々な問題や課題に対して助言や指導ができる人材を登録し、その人材情報を公開する。地方において助言や指導が必要となった場合、公開された情報をもとに、適任者に対して支援依頼できる制度を構築する。また、上記( )の「人材派遣」を鑑み、その補助要員としても活用を図る。

( ) 人材斡旋制度

地域資源の活用は、人材においても同様であり、地元の人材活用が最優先である。

しかしながら、必要となる人材の専門性から、地元において発掘することや一から育成することが困難な場合も考えられる。

したがって、地方に対する人材斡旋の窓口を設け、地方が必要とする人材の特性や資質等の求人条件をもとに、全国に向けて人材の受け入れ情報として発信し、様々な経験や能力を活かせる場を求める人や、経験豊富な退職者及びUターンやIターンの希望者等を募集、登録する。そして、登録した人材に対して、条件に見合った地域を紹介、斡旋する仕組みを展開し、全国的なネットワークを構築する。

## 【参考文献リスト】

- 環境教育・環境学習推進のための自然体験活動指導者育成システムの構築調査報告書平成 15 年 3 月（環境省自然環境局）
- エコツーリズム推進マニュアル 平成 16 年 7 月（エコツーリズム推進会議編集・環境省監修）
- エコツーリズムの世紀へ 平成 11 年 3 月（エコツーリズム推進協議会）
- 環境教育がわかる事典 平成 13 年 4 月（(財)日本生態系協会編著）
- 日本型グリーン・ツーリズム 平成 8 年 3 月（都市文化社）